廣島高等學校一覽

自昭和八年四月
至同九年三月

廣島高等學校一覽

自昭和八年四月
至昭和九年三月

283-47

廣島高等學校一覽

第十年度

（自昭和八年四月至昭和九年三月）

目次

第一 學年曆
第二 沿革略
第三 學則
第一章 總則
第二章 學科課程、教授時數
第三章 學年、學期、休業
第四章 入學、在學、轉科轉類
第五章 進級、卒業
第六章 休學、退學、轉學
第七章 徵兵
第八章 授業料
第九章 制服
第十章 寄宿寮
第十一章 圖書、器械

發行所寄贈本

昭和八年六月

第四編　則
一　學則施行細則
第一章　生徒心得
第二章　入學、在學、轉科轉類
第三章　隨意科目
第四章　遲刻、缺課、缺席
第五章　成績考查
第六章　授業料、寄宿料
第七章　通學
第八章　服裝
第九章　學級總代
二　校務分掌規程
三　文書處理規程
四　文書保存規程
五　宿直勤務規程
六　物品會計規程細則
第一章　總則　一
第二章　保管及出納
第三章　檢閱
七　圖書閱覽室規則
八　受持教官規程
第五職員
一　職員
二　學級主任
三　事務分掌
第六生徒
一　生徒氏名
二　在學者本籍府縣別表
三　入學者學歷別表
四　生徒年齡別表
第七卒業生
附　卒業生大學進入表
第八關係法規
一　高等學校令

二 高等學校規程 一三〇
三 文部省直轄諸學校官制 一三二
四 文部省直轄諸學校職員定員令 一三三
五 高等學校教員規程 一三四
六 文部省直轄諸學校雇外國人ニ關スル件 一三五
七 陸軍現役將校學校配屬令 一三五
八 陸軍現役將校學校配屬令施行規程 一三七
九 文部省直轄諸學校長職務規程 一三八
一〇 學校醫幼稚園醫及青年訓練所醫令 一三八
一一 學校醫職務規程 一四〇
一二 學校傳染病豫防規程 一四六
一三 學生生徒兒童身体檢査規程 一四九
一四 學生生徒兒童身体檢査規程上ノ發育概評決定標準 一五一
一五 文部省直轄諸學校生徒入學試驗無效ニ關スル件 一五二
一六 休育運動ノ振興ニ關スル件 一五五
一七 野球ノ統制並施行ニ關スル件 一六〇
一八 對抗競技ニ關スル申合事項 一六一
一九 兵役法 一六二
二〇 兵役法施行令 一六二
二一 兵役法施行規則 一六七
二二 陸軍召集規則 一六九
第九 教授要目 一七六
1 修身 一七一
2 國語及漢文 一六九
3 外國語 一六六
4 歴史 一七六
5 地理 一八二
6 哲學概説 一七七
7 心理及論理 一九九
8 法制及經済 二〇三
9 數學 二〇七
10 自然科學 二一一
11 物理 二一九
12 化學 二二四

13 植物及動物 二四〇
14 鑛物及地質 二五七
15 圖畫 二五〇
16 學校教練 二五三
17 体操 二五五

附錄

一 廣島高等學校校友會會則 二〇三
二 廣島高等學校同窓會規約 二一一
三 廣島高等學校寄宿寮總則 二一八
四 廣島高等學校薰風寮生規約 二一九
五 亦樂堂使用規則 二二一

學年曆

廣島高等學校一覽

第一學年曆

昭和八年

四月十一日（火）入學式

十二日（水）始業式

十三日（木）第一學期授業開始

二十九日（土）天長節拜賀式

五月二十一日（日）水上運動會

七月十四日（金）第一學期授業終了

九月六日（水）第二學期授業開始

二十三日（土）秋季皇靈祭

十月十日（火）本校創立記念日（創立第十周年記念式）

十五日（日）陸上運動會

十七日（火）神嘗祭

十一月三日（金）明治節拜賀式

廿三日（木）新嘗祭

十二月廿三日（土）第二學期授業終了

昭和九年

一月一日（月）新年拜賀式

八日（月）第三學期授業開始

二月十一日（日）紀元節拜賀式

三月三日（土）卒業生豫餞式

十日（土）第三學期授業終了

沿革略

第二沿革略

大正十二年

十二月十日　勅令第五百一號（文部省直轄諸學校官制改正）ヲ以テ本校ヲ設置セラレ同五百二號（文部省直轄諸學校職員定員令改正）ヲ以テ本校職員ノ定員ヲ校長一人教授九人書記四人ト定メラル

十一日　第三高等學校教授十時彌本校々長ニ任セラル

十四日　事務所ヲ文部省内ニ置キ事務ヲ開始ス

大正十三年

一月十六日　事務所ヲ廣島市皆實町本校内ニ移ス

三十日　本校本館ノ新築成ル

三月三十一日　本校學則、學則施行細則及校務分掌規程ヲ制定ス

四月十二日　入學式ヲ擧行シ生徒二百人ヲ入學セシム

十四日　授業ヲ開始ス

二十日　本校別館、生徒控所ノ新築成ル

廿八日　勅令第九十八號（文部省直轄諸學校職員定員令改正）ヲ以テ本校職員定員ヲ校長一人教

授十六人書記四人ト定メラル（教授七增）

五月一日　文書處理規程、文書保存規程、宿直勤務規程ヲ制定ス

三日　物品會計規程細則ヲ制定ス

七日　學則施行細則第八章第一條ノ一部ヲ改正ス

卅一日　皇太子殿下御成婚奉祝式ヲ擧行ス

十二月四日　寄宿寮ノ新築成ル

大正十四年

一月七日　寄宿寮ニ生徒七十七人ヲ收容ス

十六日　博物教室ノ新築成ル

三月二十三日　學則第四章第十三條第八章第一、二、八條ヲ改正之ニ伴ヒ學則施行細則第二章ニ四箇條ノ追加ヲナス

廿八日　生徒百八十四人ノ入學ヲ許可ス

四月十一日　入學式ヲ擧行ス

廿五日　勅令第百四十二號（文部省直轄諸學校職員定員令改正）ヲ以テ本校職員定員ヲ校長一人教授二十四人助教授一人書記五人ト定メラル（教授八、助教授一、書記一增）

五月十日　天皇　皇后兩陛下御結婚滿二十五年奉祝式ヲ擧行ス

八月十一日　物理教室ノ新築成ル

九月三十日　學則施行細則第八章第一條中ノ一部ヲ改正ス

十二月八日　圖書室ノ新築成ル

十二日　照宮成子內親王殿下御命名奉祝式ヲ擧行ス

大正十五年

一月十三日　銃器室ノ新築成ル

四月八日　生徒百七十八人ノ入學ヲ許可ス是ニ於テ生徒總數五百五十五人トナリ全學級完成ス

十七日　入學式ヲ擧行ス

五月十三日　化學教室ノ新築成ル

廿六日　皇太子殿下本校ニ行啓アラセラレ文部省專門學務局長粟屋謙、學校長十時彌、教授大谷正信、堀江久勝ニ單獨拜謁ヲ賜ヒ學校長言上書並學校一覽ヲ奉呈ス更ニ教授下田卯市以下二十八名ニ對シ列立拜謁ヲ賜ヒ次イテ運動場ニ成ラセラレ文、理科生徒對抗ノ蹴球競技ヲ台覽アラセラレ職員生徒一同ノ萬歲三唱裡ニ御機嫌麗ハシク還啓遊サル

六月一日　圖書閱覽室規則ヲ制定ス

十日　故大勳位李王殿下國葬儀ニ付休業ス

七月五日　勅令第二百四十九號（文部省直轄諸學校職員定員令改正）ヲ以テ本校職員定員ヲ校長一人教授三十人助教授四人書記六人ト定メラル（教授六、助教授三、書記一增）

十月二十二日　長慶天皇御在位御親告ノ儀行ハセラル、ニ付休業ス
同　日　書庫ノ新築成ル
十二月廿五日　大正天皇崩御　皇太子殿下踐祚昭和ト改元セラル
午前九時奉悼遙拜式ヲ擧行ス

昭和二年

一月七日　柔劍道場ノ新築成ル
十　日　午前九時朝見式ノ際群臣ニ賜リタル勅語ノ奉讀式ヲ擧行ス
十一日　雨天体操場ノ新築成ル
三十日　講堂ノ新築成ル
二月七日　大喪儀ニ付奉悼ノ爲休業ス
午後十一時運動場ニ於テ遙拜式ヲ擧行ス
八　日　大喪儀ニ付奉悼ノ爲休業ス
三月四日　勅令第二十五號（休日ニ關スル件改正）ニ伴ヒ本校學則第三章第三條ヲ改正ス
十　日　第一回卒業生百五十二人ニ對シ卒業證書ヲ授與ス
四月八日　生徒百九十四人ニ對シ入學ヲ許可ス
十六日　入學式ヲ擧行ス
八月十日　生徒集會所ノ新築成ル

三十日　温室ノ新築成ル
十二月廿五日　御眞影奉安所ノ新築ナル
廿七日　勅令第三百六十五號（文部省直轄諸學校官制）ノ改正ニ伴ヒ勅令第三百六十六號（文部省直轄諸學校職員定員令改正）ヲ以テ本校職員定員ヲ校長一人教授三十人助教授四人書記六人助手一人ト定メラル（助手一增）

昭和三年

一月十二日　本校開校式ヲ擧行ス
三月十日　第二回卒業生百七十人ニ對シ卒業證書ヲ授與ス
廿一日　危險藥品庫ノ新築成ル
廿五日　生徒百八十九人ニ對シ入學ヲ許可ス
卅一日　學則第十章第三、四、六條及附則ヲ改正ス
四月十一日　入學式ヲ擧行ス
七月十四日　學則第四章第二、三、四、六、十四條及第六章第六條ノ八ヲ改正ス
十月十日　天皇　皇后兩陛下御眞影ヲ拜戴ス
本校創立記念式ヲ擧行ス
十二日　學則第三章第三條ヲ改正ス
廿九日　勅令第二百五十六號（文部省直轄諸學校官制）ノ改正ニ伴ヒ勅令第二百五十七號（文部

省直轄諸學校職員定員令改正）ヲ以テ本校職員定員ニ生徒主事及生徒主事補各一人ヲ加ヘラル

十一月十日　即位ノ大禮ヲ行ハセラレ校長十時彌賢所大前ノ儀、紫宸殿ノ儀、賢所御神樂ノ儀及大嘗夜宴ノ儀ニ召サル

即位ノ禮拜賀式ヲ擧行ス

十四日　大嘗祭遙拜式ヲ擧行ス

十五日　大禮祝賀會ヲ擧行ス

十二月十日　教育ニ關スル御沙汰書ヲ下シ賜フ

昭和四年

三月　十日　第三回卒業生百八十九人ニ對シ卒業證書ヲ授與ス

廿七日　生徒百九十一人ニ對シ入學ヲ許可ス

三十日　學則第八章第一、二、八條及附則ヲ改正ス

四月十一日　入學式ヲ擧行ス

十月　十日　本校創立記念式ヲ擧行ス

昭和五年

三月　十日　第四回卒業生百六十八人ニ對シ卒業證書ヲ授與ス

廿六日　生徒百九十一人ニ對シ入學ヲ許可ス

四月十一日　入學式ヲ擧行ス

五月　七日　受持教官規程ヲ制定ス

十月　九日　弓道場ノ寄附ヲ受ク

十　日　本校創立記念式ヲ擧行ス

十一月十一日　亦樂堂ノ寄附ヲ受ク

昭和六年

二月　五日　天皇　皇后兩陛下御眞影ヲ拜戴ス

三月　九日　學則第四章第五條ヲ改正、之ニ伴ヒ學則施行細則第三章中改正削除ス

十　日　第五回卒業生百八十六人ニ對シ卒業證書ヲ授與ス

廿四日　生徒百九十一人ニ對シ入學ヲ許可ス

四月十一日　入學式ヲ擧行ス

十月　十日　本校創立記念式ヲ擧行ス

昭和七年

三月　十日　第六回卒業生百七十二人ニ對シ卒業證書ヲ授與ス

廿六日　生徒百七十五人ニ對シ入學ヲ許可ス

卅一日　本校々長十時彌第五高等學校長ニ任セラレ松本高等學校長新保寅次本校々長ニ任セラル

四月十一日　入學式ヲ擧行ス

八月　九日　博物教室附属消毒室ノ新築成ル
十月　十日　本校創立記念式ヲ擧行ス
十二月廿七日　勅令第三百九十五號（文部省直轄諸學校定員令改正）ヲ以テ本校職員ノ定員ヲ校長一人教授三十人、生徒主事一人、助教授三人、書記六人、生徒主事補一人ト定メラル

昭和八年
三月　十日　第七回卒業生百七十七人ニ對シ卒業證書ヲ授與ス
廿五日　生徒百七十七人ニ對シ入學ヲ許可ス
四月十一日　入學式ヲ擧行ス

學則

第三學則

大正十三年三月三十一日制定

第一章　總則

第一條　本校ハ大正七年勅令第三百八十九號ニ基キ高等學校高等科ヲ置ク

第二條　本校ノ修業年限ハ三年トス

第二章　學科課程、教授時數

第一條　本校高等科ヲ分チテ文科及理科トス

第二條　文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概說、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス

理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、鑛物及地質、心理、法制及經濟、圖畫、體操トス

外國語ハ英語又ハ獨語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第三條　文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ル

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	六	五	五
第一外國語	九	八	八
第二外國語	(四)	(四)	(四)
歷史	三	五	四
地理	二		
哲學概說			三
心理及論理		二	二
法制及經濟			二
數學	三	二	三
自然科學		三	三
體操	三	三	三
計	二九(三三)	二九(三三)	二八(三二)

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ毎週教授時數ハ左表ニ依ル

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一一	一〇	一〇
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	三一(三四)	三一(三四)	三〇(三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトアルヘシ

第四條　理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ毎週教授時數ハ左表ニ依ル

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	四	二	
第一外國語	八	六	六
第二外國語	(四)	(四)	(四)
數學	四	四	四(二)

物理		三	講義三 實驗二 五
化學		三	講義三 實驗二 五
植物及動物	二	二	講義二 實驗二 四
鑛物及地質	二		
心理		二	
法制及經濟	二		
圖畫	二	二	〔二〕
體操	三	三	三
計	二八（三二）	二八（三二）	二八（三二）

第三學年ノ數學〔二〕及圖畫〔二〕ト第三學年ノ植物及動物〔講義二、實驗二〕トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ撰擇セシム

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ毎週教授時數ハ左表ニ依ル

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一〇	九	九
第二外國語	（三）	（三）	（三）
計	三〇（三三）	三一（三四）	三一（三四）

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトアルヘシ

第三章　學年、學期、休業

第一條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條　學年ヲ分チテ三學期トス左ノ如シ

第一學期　四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期　九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期　一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第三條　休業日ハ左ノ如シ

一　日曜日

一　天長節　四月二十九日

一　夏季休業　七月十五日ヨリ九月五日ニ至ル

一　秋季皇靈祭　秋分日

一　本校創立記念日　十月十日
一　神嘗祭　十月十七日
一　明治節　十一月三日
一　新嘗祭　十一月二十三日
一　冬季休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル
一　紀元節　二月十一日
一　春季休業　三月十一日ヨリ四月十日ニ至ル

第四章　入學、在學、轉科轉類

第一條　入學ノ期ハ學年ノ初トス
第二條　本校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ品行方正ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ身体檢査ヲ受ケ之ニ合格シタル者ニ限ル
一　中學校第四學年ヲ終了シタル者
二　他ノ高等學校等常科ヲ卒業シタル者
三　高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者
四　專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者
五　文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者
六　文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第三條　前條ノ入學志願者ノ數各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ入學前ニ於ケル學業成績ト選拔試驗ノ成績トヲ併セ考査シテ入學者ヲ定ム
前項ノ外必要ト認ムルトキハ入學志願者ニ對シテ人物考査ヲ行フコトアルヘシ
第四條　前條ノ選拔試驗ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ於テ之ヲ行フ該試驗ニ外國語ヲ課スル場合ハ英語又ハ獨語トシ志願者ハ隨意ニ其ノ一ヲ選フコトヲ得ルモノトス
第五條　入學志願者ハ入學後修業セントスル科、類及選擇學科目ニ依ル種別ヲ指定シテ願出ツヘシ其ノ指定スヘキ科、類及種別ハ左ノ如シ

文科甲類	英語ヲ第一外國語トスル者
文科乙類	獨語ヲ第一外國語トスル者
理科甲類	英語ヲ第一外國語トスル者（イ、第三學年ニ於テ數學毎週二時間及圖畫毎週二時間ヲ選擇スヘキモノ）
理科乙類	獨語ヲ第一外國語トスル者（ロ、第三學年ニ於テ植物及動物毎週四時間ヲ選擇スヘキモノ）

第六條　入學志願者ハ所定ノ手續ニ依リ名票、入學考査料、寫眞ヲ具ヘ本校ニ願出ツヘシ
第七條　入學考査料ハ金五圓トス
既納ノ入學考査料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス
第八條　願ニ依リ退學シタル者退學シタル時ヨリ一箇年以內ニ於テ再入學ヲ願出ツルトキハ同一學年以下ノ學年ニ限リ詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ
第九條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ指定ノ期日マテニ入學料金三圓ヲ納付シ且戶籍謄本及履歷書ヲ差出スヘ

シ

前項ノ手續ヲ了セサル者ニ對シテハ其ノ入學ノ許可ヲ取消ス

既納ノ入學料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス

第十條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ父兄若ハ之ニ代ルヘキ者ヲ保證人トシ本校所定ノ保證書ヲ差出スヘシ

保證書ノ樣式ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第十一條　保證人ノ住所、印鑑等ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク屆出ツヘシ

第十二條　保證人死去若ハ其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ義務ヲ盡スコト能ハサルトキハ速ニ他人ヲ以テ之ニ代ヘ更ニ第十條ノ手續ヲナスヘシ

第十三條　入學ノ後ニ於テ轉科轉類ヲ出願シタルトキハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

前項ニ依リ出願スル者ハ其ノ事由ヲ明記シ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

轉科轉類ニ關スル規定ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第十四條　他學校ニ入學出願ヲ爲サントスル者ハ其ノ事由ヲ明記シ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第五章　進級、卒業

第一條　各學年ノ末ニ於テ生徒ノ學業成績、行狀、動惰等ヲ考査シ合格ノ者ハ進級若ハ卒業セシメ不合格ノ者ハ原學年ニ留ム

第二條　學業成績ハ日常ノ課業、臨時試驗並學期試驗ノ成績ヲ參酌シテ之ヲ定ム

臨時試驗ハ課業ノ進展ニ應シ敎官ノ見込ニ依リ之ヲ行フ

學期試驗ハ各學期ノ末ニ於テ之ヲ行フ

第三條　學業成績ノ考査ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第四條　原學年ニ留メタル者ニハ次學年ノ初ヨリ當該學年ノ全學科ヲ再修セシム

第五條　本校所定ノ課程ヲ履修シテ卒業シタル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス

卒　業　證

族籍

何

本校所定ノ文(理)科ノ學科ヲ修メ正ニ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス

年　月　日　　某　年　月　日生

番　號

廣島高等學校長位勳學位姓氏名印

第六章　休學、退學、轉學

第一條　疾病又ハ已ムヲ得サル事由ニ依リ三箇月以上修學スルコト能ハサル見込ノ者ニ對シテハ休學ヲ許可スルコトアルヘシ

休學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人ノ連署ヲ以テ願出ツヘシ但シ疾病ノ爲ニ休學セントスルトキハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第二條　陸軍又ハ海軍ノ現役ニ服シ若ハ召集ニ應スル者ハ其ノ服役又ハ召集ノ間休學トス

第三條　休學ハ當該學年ニ限ル但シ前條ニ依ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　本章第一條ニ依リ休學ノ許可ヲ得タル者ハ次學年ノ始ヨリ課業ニ就クヘシ

本章第二條ニ依リ休學シタル者ハ服役滿期又ハ召集解除後一箇月以內ニ於テ原學年ノ課業ニ就クヘシ

第五條　疾病其ノ他已ムヲ得サル事由ニ依リ退學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人ノ連署ヲ以テ願出ツヘシ但シ疾病ニ依リ退學セントスルトキハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ除名ス

一　性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二　學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三　二回引續キ同一學年ニ留マル者但本章第二條ニ依リ休學セル期間ヲ算入セス

四　引續キ一箇年以上缺席シタル者

五　正當ノ理由ナク又ハ屆出ヲ爲サスシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

六　出席常ナラサル者

七　一定ノ期間內ニ授業料及寄宿料ヲ納付セサル者

八　第四章第十四條ノ手續ヲ爲サスシテ他學校ニ入學出願シタル者

前項ノ外除名ニ關シテハ臨機ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ

第七條　他ノ學校ヘ又ハ他ノ學校ヨリノ轉學ハ之ヲ許サス

第七章　懲戒

第一條　校規風紀ヲ紊リ其ノ他生徒タルノ本分ニ背戻スル者ハ之ヲ懲戒ス

第二條　懲戒ハ之ヲ分チテ戒飭、停學及放校トス

第八章　授業料

第一條　授業料ハ一學年金八拾圓トス

第二條　授業料ハ左ノ三期ニ分チテ之ヲ徵收ス

第一學期　四月　金貳拾五圓

第二學期　九月　金參拾圓

第三學期　一月　金貳拾五圓

授業料徵收期日ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第三條　既納ノ授業料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス

第四條　第四章第八條ニ依リ入學シタル者ノ授業料ハ其ノ學期分ヲ徵收ス

第五條　學期開始後退學スル者ノ授業料ハ其ノ學期分ヲ徵收ス

第六條　授業料ハ缺席、停學、休學等ノ爲ニ之ヲ免除スルコトナシ但シ第六章第二條ニ依リ休學シタル者ニ對シテハ授業料徵收期ノ前ニ在リテハ次學期分ヨリ之ヲ徵收セス

第七條　第六章第二條ニ依リ休學シタル者學期ノ中途ニ於テ課業ニ就キタルトキハ當該學期分ノ授業料ハ其ノ月分ヨリ之ヲ徵收ス

第八條　本章第六條但書及第七條ノ場合ニ於ケル授業料ノ月割額ハ金八圓トス但シ第一學期分授業料ノ月割ニ關シテハ七月及八月ヲ算入セス

第九條　第四條乃至第七條ノ授業料徴收期日ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第九章　制服

第一條　生徒ハ本校所定ノ服裝ヲナスヘシ但シ新ニ入學シタル生徒ニ對シテハ入學ノ日ヨリ一定ノ期間制帽及靴ノ外ハ之ヲ猶豫ス

第十章　寄宿寮

第一條　寄宿寮ニ入ラントスル者ハ本校所定ノ書式ニ依リ願書ヲ差出シテ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　寮生ハ規定ノ期日內ニ寄宿料ヲ本校ニ納付シ且食費ヲ支拂フヘシ

第三條　寄宿料ハ一學年金貳拾圓トス

第四條　寄宿料ハ左ノ三期ニ分チテ之ヲ徴收ス

第一學期分　金六　圓

第二學期分　金八　圓

第三學期分　金六　圓

寄宿料徴收期日ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第五條　既納ノ寄宿料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ返付セス

第六條　寄宿料徴收期日後ニ入寮スル者ノ寄宿料ハ其ノ月分ヨリ寄宿料徴收期日前ニ退寮スル者ノ寄宿料ハ其ノ月分ヲ徴收ス

前項ノ場合ニ於ケル寄宿料月割額ハ金貳圓トス但シ寄宿料ノ月割ニ關シテハ七月及八月ヲ算入セス

第一項ノ寄宿料徴收期日ハ細則ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第七條　寮生ニシテ退寮セントスル者ハ其ノ事由ヲ明記シテ願出テ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第八條　寮生ニシテ疾病ニ罹リタルトキハ其ノ種類又ハ症狀ニ依リ外泊若ハ退寮セシムルコトアルヘシ

第九條　寮生ニシテ寮規ヲ素ル行爲アリタルトキハ之ニ退寮ヲ命ス

第十一章　圖書、器械

第一條　本校所屬ノ圖書類ハ特別ノ規定ニ依ルモノヽ外總テ之ヲ文庫內ニ藏置ス

第二條　圖書ヲ閱覽スルコトヲ得ル者ハ本校職員、生徒及特ニ學校長ノ許可ヲ得タル者ニ限ル

第三條　本校職員ハ所定ノ手續ヲ了シ職務ニ必要ナル圖書ヲ借受ケ之ヲ文庫外ニ携出スルコトヲ得但シ貴重圖書及閱覽室備付ノ圖書ハ之ヲ携出スルコトヲ得ス

第四條　教官室、特別教室又ハ事務室等ニ備付ヲ要スル圖書ハ當該學科主任、各課々長又ハ會計主任之ヲ借受ケ其ノ保管ノ責ニ任スル者トス

第五條　本校所屬ノ學術用標本、器具、機械ハ各所屬教室ニ之ヲ藏置ス

第六條　生徒ハ當該學科擔任教官ノ許可ヲ得テ實習ノ爲圖書、標本、器具、機械ヲ使用スルコトヲ得

第七條　圖書、標本、器具、機械ヲ紛失、毀損又ハ汚染シタルトキハ其ノ損害ノ程度ニ依リ之ヲ辨償セシメ又ハ其ノ修理ニ要スル費用ヲ負擔セシムルコトアルヘシ

附　則

本則ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（備　考）

大正十三年三月三十一日（廣高專二號）制定許可
大正十四年三月二十三日（廣高專三號）改正許可　轉科轉類及授業料
昭和二年三月四日（勅令第二〇號改正ニ伴フ）改正　休業日
昭和三年三月三十一日（廣高專四號）改正許可　寄宿料
昭和三年七月十四日（廣高專一〇號）改正許可　身体檢査及檢定料
昭和三年十月十二日（廣高專一二號）改正許可　休業日
昭和四年三月十九日（專門學務局長通牒ニ依ル不要許可）改正　授業料
昭和六年三月九日（發專一三號）改正許可　選擇科目

細

則

第四編　細則

一學則施行細則

大正十三年三月三十一日制定
改正（大正十三年五月、大正十四年三月、同年九月、昭和六年三月）

第一章　生徒心得

第一條　校ノ內外ヲ問ハス其ノ體面ヲ汚スカ如キ言行アルヘカラス

第二條　始業ノ號鐘ニ依リ直ニ定席ニ着キ教官ノ入室ヲ待ツヘシ教官入室スルトキハ起立シテ敬禮ヲ行フヘシ

退室ノ際モ亦同シ

第三條　教官定刻ニ至ルモ教室ニ臨場セサルトキハ教務課ニ問合セ其ノ指揮ヲ受クヘシ隨意ニ退散スルコトヲ得ス

第四條　教室ニ在リテハ授業中ハ勿論休憩中ト雖モ靜肅ヲ旨トシ喧噪ノ行爲アルヘカラス

第五條　教室內ニハ授業上ノ必要品及許サレタルモノ、外ハ持込ムヘカラス

第六條　教官ノ許可ナクシテ恣ニ退出スルコトヲ得ス

第七條　校舍內ニ於テハ指定場所ノ外喫煙スヘカラス

第八條　登校ニ際シテハ必ス靴ヲ穿ツヘシ但シ特ニ生徒主事ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　建物又ハ器物ヲ毀損シ若ハ汚損シタル者ニ對シテハ之ヲ辨償セシメ情狀ニ依リテハ處分スルコト

アルヘシ

第十條　本校ノ示達ハ所定ノ場所ニ掲示シタル以上ハ一般ニ了知セラレタルモノト見做スニヨリ常ニ掲示場ニ注意スヘシ

第十一條　掲示ヲ爲サントスルトキハ生徒主事ノ許可ヲ受ケ必ス所定ノ場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第十二條　集會ヲ爲サントスルトキハ其ノ代表者ヲ定メ集會ノ目的、種類、時日、場所（會費ヲ要スルトキハ其ノ金額）等ヲ具シ集會ノ前日マテニ生徒主事ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條　集會ノ爲ニ教室ヲ借用セントスルトキハ教務課ノ許可ヲ受クヘシ共ノ他ノ場所ヲ使用セントスルトキハ生徒主事ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條　校外ニ於ケル集會ハ風紀ヲ害シ多額ノ費用ヲ要スルノ虞ナキ場所ニ於テ之ヲ開クヘシ

第十五條　集會ハ休業日又ハ放課後ニ於テ之ヲ開クヘシ

第十六條　一定ノ會ヲ組織セントスルトキハ生徒主事ノ許可ヲ受クヘシ之ヲ解散シタルトキハ生徒主事ニ屆出ツヘシ

第十七條　別ニ規定ヲ設ケタルモノヽ外願屆書等ハ總テ學級主任ノ承認ヲ經ヘシ

第十八條　本校生徒ハ總テ本校々友會員タルヘキ義務アルモノトス

第二章　入學、在學、轉科轉類

第一條　學則第四章第十一條ニ依リ入學ノ許可ヲ得タル者ノ差出スヘキ保證書ノ樣式ハ左ノ通之ヲ定ム

保　證　書

參錢收入印紙

本籍及族稱
家庭所在地
家族關係

氏　名　印

年月日生

右之者今般入學ノ御許可ヲ得候ニ付テハ同人在學中ニ係ル一切ノ事件ハ私ニ於テ引受クヘキコト保證候也

追テ向後私ノ宿所移轉或ハ印章相改メ候節ハ速ニ屆出ツヘク候也

年　月　日

本籍地
現住所
職業
生徒トノ續柄
保證人氏名印
年月日生

廣島高等學校長氏名殿

第二條　戸籍ニ異動ヲ生シタルトキハ戸籍謄本ヲ添ヘ遲滯ナク屆出ツヘシ

第三條　陸軍又ハ海軍ノ現役ニ服シ若ハ召集ニ應シタルトキハ其ノ役名服役又ハ召集ノ期限及部隊又ハ艦

經名ヲ具シ選滯ナク屆出ツヘシ

第四條　學則第四章第十三條ニ依ル轉科、轉類ハ同學年若ハ其ノ以下ノ學年ニ限ル

第五條　第一學年ニ轉科、轉類セントスル者ニハ入學選拔試驗ヲ受ケシム

第六條　第二學年以上ニ轉科、轉類セントスル者ニハ缺員アル場合ニ限リ左ノ方法ニ依リ特ニ許可スルコトアルヘシ

一　從來ノ操行及學業成績ヲ參考シタル上檢定試驗ヲ課ス

二　檢定試驗ハ轉入セントスル科類ニ於ケル前學年以下ノ全科目ニ付之ヲ課スルモノトス
但シ轉科、轉類セントスル者ノ既修シタル學科目ニシテ其ノ內容、程度及每週教授時數ニ於テ同等以上ト認ムヘキ場合ハ當該學科目ニ限リ試驗ヲ課セサルコトヲ得

第七條　轉科、轉類ノ時期ハ學年ノ始トス

第三章　隨意科目

第一條　入學ヲ許可セラレタル者ニシテ隨意科目ヲ履修セントスル者ハ指定ノ期日マテニ其ノ旨屆出ツヘシ

第二條　隨意科目ハ學年ノ中途ヨリ之ヲ履修スルコトヲ得ス

第三條　隨意科目ハ學年ノ中途ヨリ其ノ履修ヲ止ムルコトヲ得ス
次學年ヨリ隨意科目ノ履修ヲ止メントスル者ハ其ノ學年ノ終ニ於テ屆出ツヘシ

第四條　入學者選拔試驗ノ外國語ニ獨語ヲ選ヒタル入學者ニ對シテハ本校ノ都合ニ依リ第二外國語ヲ履修セシメサルコトアルヘシ

第四章　遲刻、缺課、缺席

第一條　疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニ因リ課業ニ遲刻又ハ缺席セル者ハ當日ヨリ三日以內（休日ヲ除ク）ニ生徒課備付ノ缺席屆簿ニ日時及其ノ事由ヲ記入捺印シ生徒主事ノ承認ヲ受クヘシ

三日以上引續キ缺席シテ前項ノ手續ヲ爲ス能ハサルトキハ最初ヨリ三日以內ニ書面ヲ以テ生徒主事ニ屆出ツヘク又疾病ニ因リ缺席七日以上ニ亘ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第二條　左ノ事由ニ因リテ缺課缺席ヲ屆出テタル場合ハ之ヲ缺課缺席ノ數ニ算入セス

一　父母ノ喪ニ當リタルトキハ七日以內、祖父母兄弟姉妹ノ喪ニ當リタルトキハ五日以內、其ノ他ノ服忌ヲ受クル場合ハ三日以內

二　徵兵檢查ヲ受クル場合ハ其ノ當日ト本校ノ適當ナリト認ムル往復日數ヲ加ヘタル日數

第五章　成績考查

第一條　各學科目ノ成績ニ對シ評點ヲ附ス
評點ヲ分チテ學期評點及學年評點ノ二種トス

第二條　學期評點ハ學期每ニ各學科目ニ就キ當該學期間ノ日常ノ課業、臨時試驗、學期試驗ノ成績及平素ノ動惰等ヲ考查シテ之ヲ定ム

第三條　學年評點ハ各學期評點ノ和ヲ三ヲ以テ除シタルモノトス

第四條　各學年ノ評點科目數ハ左ノ通之ヲ定メ其ノ一科目ノ滿點ヲ百點トス

學科目＼學年	第一學年 文甲	第一學年 文乙	第一學年 理甲	第一學年 理乙	第二學年 文甲	第二學年 文乙	第二學年 理甲	第二學年 理乙	第三學年 文甲	第三學年 文乙	第三學年 理甲	第三學年 理乙
修身					一	一	一	一	一	一	一	一
國語及漢文	二	二	二	二	二	二	一	一	二	二		
第一外國語	三	三	三	三	三	三	二	三	三	三	二	三
第二外國語	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)
歷史	一	一			二	二			一	一		
地理	一	一										
哲學概說									一	一		
心理及論理					一	一			一	一		
法制及經濟			一	一	一	一			一	一		
數學	一	一	二	二			二	二			二(一)	二(一)
自然科學	一	一			一	一						
物理							一	一			二	二
化學							一	一			二	二
植物及動物			一	一			一	一			二	二
鑛物及地質			一	一								
心理							一	一				
圖畫			一	一			一	一			(一)	(一)
体操	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
合計	一〇(一一)	一〇(一一)	一二(一三)	一二(一三)	一二(一三)	一二(一三)	一二(一三)	一三(一四)	一一(一二)	一一(一二)	一二(一三)	一三(一四)

第二外國語ヲ履修スル者ニ對シテハ他學科ト同一ニ取扱フモノトス

第五條　試驗ニ缺席シタル者ニハ零點ヲ附ス但シ其ノ缺席ノ事由正當ナル者ニ對シテハ左ノ規定ニ依ル

一　學期試驗ニ在リテハ平素ノ學業成績、行狀、勤惰等ヲ考査シ他ノ學期ノ評點ヲ參酌シテ認定點ヲ附與ス

二　臨時試驗ニ在リテハ其ノ學期試驗ノ成績ヲ參酌シテ認定點ヲ附與ス

三　同一學期ノ學期試驗及臨時試驗ニ缺席シタル者ニハ他學期ノ學期評點ヲ參酌シテ認定點ヲ附與スルコトアルヘシ

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ認定點ヲ附與セス

一　停學處分ヲ受ケタル爲ニ試驗ニ缺席シタル者

二　試驗ニ缺席シタル事由ヲ期日內ニ屆出テサル者

三　當該學期ニ於テ某科目ノ教授總時數ノ五分ノ三以上缺席シタル者

第七條　前條第三號ニ該當スル者ニシテ他ノ二學期ノ成績佳良ナル者ニ對シテハ詮議ノ上認定點ヲ附與スルコトアルヘシ

第八條　學年成績ノ平均評點六十以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ行狀、勤惰ヲ參酌シテ合格トシ進級又ハ卒業セシム

一　科目評點六十未滿ノモノナキ者

二　科目評點六十未滿ノモノ一科目アルモ其ノ評點四十以上ナル者

三　科目評點六十未滿ノモノ二科目アルモ其ノ評點一ハ五十以上他ハ四十以上ナル者

四　科目評點六十未滿ノモノ科目總數ノ三分ノ一以內アルモ何レモ其ノ評點五十以上ナル者

第九條　當該學年ニ於ケル缺課缺席ノ數參多ナル者ハ前條ニ拘ラス進級又ハ卒業セシメサルコトアルヘシ

第六章　授業料、寄宿料

第一條　授業料及寄宿料徵收期日ハ左ノ通之ヲ定ム

第一學期分　四月十六日ヨリ同月二十日迄

第二學期分　九月十六日ヨリ同月二十日迄

第三學期分　一月十六日ヨリ同月二十日迄

前項ノ期日中休業ニ當ル日アルトキハ順延ス

第二條　授業料及寄宿料ハ前條ノ徵收期日內ニ於テ所定ノ納付書用紙ニ所要事項ヲ記入シタルモノヲ添ヘ現金ヲ以テ會計課ニ納付スヘシ但シ病氣其ノ他已ムコトヲ得サル事故ニ因リ歸鄉シ又ハ他ノ地方ニ在ル者ハ郵便爲替ヲ以テ納付スルコトヲ得

第三條　本章第一條ノ徵收期ヲ過キテ入學又ハ入寮シタル者ハ入學又ハ入寮ノ日ヨリ七日以內ニ授業料又ハ寄宿料ヲ納付スヘシ

第四條　本章第一條及第三條ノ期限內ニ授業料及寄宿料ヲ納付セサル者ニ對シテハ之ヲ納付スルマテ出席ヲ停止ス

第五條　本章第一條及第三條ノ期限滿了ノ翌日ヨリ二週間ヲ經過スルモ尙授業料又ハ寄宿料ヲ納付セサル者ハ學則第六章第六條第七號ニ依リ之ヲ除名ス

第七章　通學

第一條　通學生徒ハ異動ノ有無ニ拘ハラス每學期ノ始ニ於テ所定ノ用紙ヲ以テ宿所ヲ生徒課ニ屆出ツヘシ

第二條　通學生徒宿所ヲ變更シタルトキハ三日以內ニ其ノ宿所ヲ屆出ツヘシ

第三條　通學生徒ノ宿所ニシテ不適當ト認メタルトキハ宿所ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第八章　服裝

第一條　本校生徒ノ服裝ハ左ノ通之ヲ定ム

一　正帽

製式　丸形

品質　絨

色　黑

◎編　　則

徽章　眞鍮製金色ニシテ三個ノ竹葉ニ高ノ字ヲ附シタルモノ

横章　白線（幅約二分五厘）二條

二　略帽

製式　普通形（緣約三寸高サ三寸）

品質　麥藁

鉢巻　焦茶地（幅約一寸七分）ニ白線（幅約二分）二條（間隔約二分）

徽章　正帽ニ同シ

三　服

(甲)　冬服

(一)　上衣

製式　背廣形立襟

品質　絨、サージ又ハ小倉

色　濃紺又ハ黒

襟章　文科ハL、理科ハS（眞鍮製金色）ヲ左襟ニ附ス

釦　圓形ニシテ徽章ヲ表シタルモノ（眞鍮製金色）

(二)　ズボン

製式　普通

品質　上衣ニ同シ

色　上衣ニ同シ

(乙)　夏服

(一)　上衣

製式　冬服ノ上衣ニ同シ

品質　小倉

色　藍鼠霜降

釦　冬期ノ上衣ニ同シ

襟章　冬服ノ上衣ニ同シ

◎編　　則

(二)ズボン

製式　冬服ノズボンニ同シ

品質　上衣ニ同シ

色　上衣ニ同シ

四　靴

製式　短靴（編上及深護謨ヲ含ム）

品質　革、ズック又ハ護謨

色　黒

五　脚胖

製式　巻脚胖

品質　絨又ハ木綿

色　茶褐

脚胖ハ特ニ指定シタル場合ニノミ之ヲ着用スルモノトス

第二條　左ノ場合ニ於テハ前條制定ノ服裝ヲ爲スヘシ

一　儀式擧行ノ場合

二　授業ヲ受クル場合

三　本校ヨリ特ニ指定シクル場合

第三條　已ムヲ得サル事故ニ因リ制服ヲ着用スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ詳記シテ生徒課ニ届出テ略裝許可ヲ受クルニ非サレハ授業ヲ受クルコトヲ得ス

第四條　外出ノ際ハ成ルヘク制服ヲ着用スヘシ若シ和服ヲ着用スルトキハ必ス正帽ヲ被リ袴ヲ穿ツヘシ

第五條　冬服着用期間ハ十月一日ヨリ翌年四月三十日マテ夏服着用期間ハ五月一日ヨリ九月三十日マテトス但シ時宜ニ依リ其ノ期間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第六條　新ニ入學セル生徒ニ對シテハ其ノ年四月三十日マテハ和服着用ヲ許可ス

第七條　略帽ハ五月一日ヨリ九月三十日マテ之ヲ着用スルコトヲ得但シ儀式其ノ他特ニ指定シタル場合ニハ必ス正帽ヲ着用スヘシ

第八條　外套ヲ着クル者ハ乘馬形（絨製濃紺色又ハ黒色）ノモノヲ用フヘシ但シ將校マント（絨製濃紺色又ハ黒色）ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第九章　學級總代

第一條　各學級ニ學級總代二名ヲ置ク學級總代ハ其ノ學級ノ生徒ヲシテ互選セシメ學校長之ヲ命ス但シ第一學年ニ在リテハ此ノ規定ニ依ラサルコトアルヘシ

第二條　學級總代ハ當該學級主任ノ指揮ヲ承ケ其ノ學級ニ關スル一切ノ世話ヲ爲スモノトス

第三條　學級總代ノ任期ハ一學年間トス

第四條　學級總代ハ文科理科每ニ其ノ科ノ最上級ノ學級總代中ヨリ代表者一名ヲ選擧シ之ヲ其ノ科總代トス

二　校務分掌規程

大正十三年三月三十一日制定

第一條　校務ヲ分チテ教務課、生徒課、庶務課、圖書課及會計課ノ五トス

第二條　教務課、生徒課、庶務課、圖書課ニ課長ヲ置キ會計課ニ主任ヲ置ク

第三條　課長ハ教授中ヨリ主任ハ會計課員中ヨリ學校長之ヲ命ス

教務課長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ教務ヲ掌理ス

生徒課長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ訓育ニ關スルコトヲ掌理ス

庶務課長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

圖書課長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ圖書ニ關スル事務ヲ掌理ス

會計課主任ハ學校長ノ命ヲ承ケ會計ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條　一學科又ハ數學科ヲ合セタルモノニ學科主任ヲ置キ教官中ヨリ學校長之ヲ命ス

學科主任ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ當該學科ノ授業ニ關スル事ヲ掌ル其ノ擔任スヘキ事項左ノ如シ

一　當該學科教授ノ統一改善ヲ圖ルコト

二　當該學科ノ教科用書ニ關シ提案スルコト

三　當該學科ノ授業分擔ニ關シ提案スルコト

四　當該學科ノ特別教室ニ關スルコト

五　其ノ他當該學科ニ關スル事項

第五條　各學級ニ學級主任ヲ置キ教官中ヨリ學校長之ヲ命ス

學級主任ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ當該學級ノ生徒ノ監督指導ノ任ニ當ル其ノ擔任スヘキ事項左ノ如シ

一　當該學級ノ生徒ノ勤惰及行狀ニ關スルコト

二　當該學級ノ生徒ノ試業成績ニ關スルコト

三　當該學級ノ生徒ノ訓育ニ關スルコト

四　當該學級ノ教室ノ整理ニ關スルコト

五　其ノ他當該學級ニ關スル事項

第六條　教務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　學科課程教科書及授業時間ニ關スルコト

二　學級ノ編成ニ關スルコト

三　授業上ノ設備ニ關スルコト

四　生徒募集選拔試驗及入學ニ關スルコト

五　隨意科目選擇科目ニ關スルコト

六　授業及休業ニ關スルコト

七　生徒ノ學籍簿出席簿ニ關スルコト

八　生徒ノ休學、退學及除名ニ關スルコト

九　生徒ノ試業及成績考査ニ關スルコト

十　生徒ノ進級及卒業ニ關スルコト
十一　卒業生ノ大學進入ニ關スルコト
十二　在學及成績證明ニ關スルコト
十三　教官會議ニ關スルコト
十四　教官ノ缺勤、早退、遲刻屆ニ關スルコト
十五　學級主任及學級總代ニ關スルコト
十六　教室及教官室ニ關スルコト
十七　教室參觀人ニ關スルコト
十八　教務課ニ屬スル備品ノ保管ニ關スルコト
十九　教務課ニ關スル文書ノ整理保存ニ關スルコト
二十　其ノ他教務ニ關スル一切ノ事項

第七條　生徒課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　生徒ノ指導、監督、訓誨、懲戒ニ關スルコト
二　生徒ノ動情、行狀、遲刻、缺課、出缺席ニ關スルコト
三　生徒ノ衞生及身体檢査ニ關スルコト
四　生徒ノ服裝ニ關スルコト
五　生徒ノ集會及掲示ニ關スルコト
六　生徒控所ニ關スルコト
七　生徒ノ身分證明及兵役ニ關スルコト
八　通學生徒ノ宿所ニ關スルコト
九　生徒ノ入寮退寮ニ關スルコト
十　寄宿寮ノ管理、警備、衞生、食事ニ關スルコト
十一　寄宿寮ノ當直ニ關スルコト
十二　校内營業者ニ關スルコト
十三　生徒課ニ關スル文書ノ作製保管ニ關スルコト
十四　生徒課ニ屬スル備品ノ保管ニ關スルコト
十五　其ノ他生徒ノ取締ニ關スル一切ノ事項

第八條　庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　御眞影及勅語ノ保管ニ關スルコト
二　學校長ノ官印及校印ノ管守ニ關スルコト
三　儀式ニ關スルコト
四　學校一覽及統計報告ニ關スルコト
五　日誌及諸記錄ニ關スルコト
六　文書ノ接受及發送ニ關スルコト

七　諸規則ノ制定及改廢ニ關スルコト
八　職員ノ進退、身分及服務ニ關スルコト
九　職員ノ叙位及叙勳ニ關スルコト
十　職員出席簿ノ管理及調査ニ關スルコト
十一　職員ノ病屆ニ關スルコト
十二　卒業證書ニ關スルコト
十三　官報々告其ノ他ノ報告ニ關スルコト
十四　校長室及庶務課ノ備品ノ保管ニ關スルコト
十五　乘車乘船割引證ニ關スルコト
十六　當直ニ關スルコト
十七　外國教師ニ關スルコト
十八　寄附ニ關スルコト
十九　庶務ニ關スル文書ノ起案及公文書類ノ整理保存ニ關スルコト
二十　其ノ他各分課ノ主掌ニ屬セサル一切ノ事項

第九條　圖書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　圖書ノ保管及整理ニ關スルコト
二　圖書目錄ニ關スルコト
三　書庫及閱覽室ニ關スルコト
四　圖書ノ貸付ニ關スルコト
五　購入圖書ノ審査ニ關スルコト
六　其ノ他圖書ニ關スル一切ノ事項

第十條　會計課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル

一　歲入、歲出、豫算及決算ニ關スルコト
二　國有財産及賚金管理ニ關スルコト
三　金錢收支及保管ニ關スルコト
四　物品ノ購入及不用品ノ處分ニ關スルコト
五　物品ノ出納及保管ニ關スルコト
六　營繕ニ關スルコト
七　校內ノ警備及衞生ニ關スルコト
八　傭人ノ進退及取締ニ關スルコト
九　會計ニ屬スル文書ノ起案、整理及保存ニ關スルコト
十　會計帳簿ノ整頓ニ關スルコト
十一　會計課ニ屬スル備品ノ保管ニ關スルコト
十二　其ノ他會計ニ關スル一切ノ事項

三　文書處理規程

大正十三年五月一日制定

第一條　本校ニ到達シタル文書ハ總テ庶務課ニ於テ之ヲ收受シ左ノ各號ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

一　親展書其他特定ノモノハ其ノ儘名宛人ニ配付スルコト

二　前號以外ノ文書ハ總テ之ヲ開封シ文書收受簿ニ登記シ文書ニ記號及年月日ヲ記入シ直ニ主掌分課ニ配付シ其ノ認印ヲ徵スルコト

三　二課以上ノ關係アル文書ハ關係ノ重キニ從ヒ之ヲ配付スルコト

四　配付ヲ受ケタル文書ニシテ他課主掌ニ屬スルモノナルトキハ之ヲ庶務課ニ還付スヘシ

第二條　左ノ文書ハ庶務課ヲ經由セス主掌分課ニ於テ直接之ヲ收受スヘシ

一　教務ニ關シ教官ヨリ提出スル報告書類

二　生徒ヨリ差出ス願届書類

三　入學志願者心得、受驗名票等

四　其ノ他學校長ノ指定シタル書類

第三條　文書ノ配付ヲ受ケタルトキハ各課ニ於テ遲滯ナク之ヲ調査シ相當處理案ヲ提出スヘシ

第四條　文書ノ內容上直ニ處理案ヲ提出スルコト能ハサルトキ又ハ處理案ヲ要スルヤ否ヤ不明ナルトキハ校長ニ供閲シテ其ノ指揮ヲ受クヘシ

第五條　決裁ヲ受ケントスル文書ニシテ他課ニ關聯スル事件ハ該課ニ合議スヘシ

第六條　決裁濟ノ文書ハ主掌分課ニ於テ決裁年月日ヲ記入シ速ニ之ヲ處理スヘシ

第七條　庶務課ニ於テハ發送ヲ要スルモノハ淨書校合シ其ノ議案書ヲ添ヘテ庶務課ニ送付スヘシ

第八條　庶務課ニ於テ文書ヲ發送シタルトキハ其ノ月日、受信名、發信名、料金等ヲ登記シ取扱主任檢印スヘシ

第九條　事件完結シタル文書ニシテ各課ニ保存スヘキモノヲ除ク外ハ總テ之ヲ庶務課ニ引繼クヘシ

各分課ニ於テ保存スヘキ文書ハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依リ之ヲ整理シ又ハ編纂スヘシ

四　文書保存規程

大正十三年五月一日制定

第一條　事件ノ完結シタル文書ハ各主掌分課ニ於テ整理編纂シテ之ヲ保存スヘシ

第二條　文書ノ保存ヲ區別シテ永年、十年、五年及一年ノ四種トシ其ノ保存スヘキ文書名ハ各課ニ於テ學校長ノ許可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第三條　文書ハ左ノ各號ニ依リ編纂スヘシ

一　事件完結ノ順序ニ依リ曆年（會計ニ關スルモノハ會計年度）ヲ以テ分界トス

但シ紙數ノ多寡ニ依リ一箇年分ヲ便宜分綴シ又ハ數年分ヲ合綴スルコトヲ得

二　卷首ニ件名及索引丁數ヲ掲記シタル目錄ヲ附シ其ノ表紙ニ簿冊名、年若ハ年度、保存期間、記號及主掌課名ヲ記載シ數冊ニ分綴セシモノハ數字ノ符號ヲ附シ尚檢索ヲ容易ナラシムル爲前部切斷面ニ簿冊名、年若ハ年度、保存期間ヲ標記スルコト但シ保存期間一年ニ屬スル文書ニ目錄ヲ附セサルコトヲ得

三　圖表類ニシテ合綴シ難キモノハ袋又ハ箱ニ納メテ名稱ヲ標記シ其ノ所在ヲ目錄ニ附記スルコト

第四條　前條ニ依リ編纂シタル文書ハ文書臺帳（別紙樣式）ニ登錄シテ之ヲ一定ノ場所ニ藏置スヘシ

第五條　保存期間ハ文書完結ノ翌年ヨリ起算ス但シ會計年度ニ屬スルモノハ翌年度ヨリ起算スヘシ

第六條　保存期間ヲ了リ若ハ未タ了ラサルモ保存ノ必要ナシト認メタル文書ハ經伺ノ上之ヲ會計課ニ引繼クヘシ但シ一般ノ披閱ヲ避クヘキ文書ハ引繼前經伺ノ上相當ノ措置ヲ爲スヘシ

前項ノ引繼ヲ了リタルトキハ文書臺帳ニ廢棄年月日ヲ記入スヘシ

自昭和　　年（度）

至昭和　　年（度）

文書臺帳

課

名稱	年（年度）	記號	冊數	保存期間	保存終期	廢棄年月日

五 宿直勤務規程

大正十三年五月十日制定

第一條　執務時間外ニ生スル事務ヲ處理スル爲宿直ヲ置ク

第二條　本校書記及雇員ハ輪番ヲ以テ宿直ニ服スヘシ

前項以外ノ宿直ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ都度學校長特ニ之ヲ命ス

第三條　左ノ各號ノ一ニ當ル時ハ宿直ヲ免ス

一　賜暇中

二　忌引中

三　病氣其ノ他ノ事故ニ因ルトキ

四　出張ノ前日及歸校ノ翌日

五　新任者ハ着任ノ日ヨリ七日間

六　以上ノ外學校長ニ於テ除直スヘキ必要アリト認メタルトキ

第四條　宿直員ハ止ムヲ得サル事故ノ爲當日ノ勤務ニ差支アルトキハ同僚ヲ以テ代直ヲ立ツルコトヲ得

第五條　宿直者ニハ其ノ前日マテニ庶務課ヨリ通知シ認印ヲ調スヘシ

第六條　宿直ノ時間ハ左ノ如シ

一　平日ハ退出時刻ヨリ翌日出勤時刻マテ

二　休日ノ晝間ハ出勤時刻ヨリ退出時刻マテ及同夜間ハ退出時刻ヨリ翌日出勤時刻マテ

第七條　宿直室ニ備フヘキ帳簿及器具等左ノ如シ

一　宿直名簿

二　宿直日誌

三　文書收受簿

四　文書發送簿

五　印　箱

六　郵便切手受拂簿

七　電信用語符號表

八　郵便切手及葉書

九　校務分掌規程

十　職員住所錄

十一　生徒宿所錄

第八條　宿直員勤務ノ主要事項概ネ左ノ如シ

一　接受シタル物件ヲ處理スルコト

二　校舍各室ノ鎖鑰ヲ管守スルコト

三　巡視ヲ監督シテ校舍內外ノ取締ヲ爲スコト

四　暴風雨及其ノ他變事ニハ注意シテ校舍ノ內外ヲ巡視シ特ニ火氣ニ對シテ警戒スルコト

第九條　宿直中接受シタル物件ハ左ノ取扱ヲ爲スヘシ

一　親展公文書並職員生徒宛私文書及其ノ他ノ物件ハ翌日夫々配付シ電報其ノ他急速ヲ要スト認メ得ヘキモノハ直ニ名宛人ニ送付スヘシ

二　親展ニアラサル公文書ハ直ニ開封シ夫々處理スヘシ

第十條　宿直中非常異變アルトキハ直ニ學校長、教頭、各課長及學校附近在住ノ職員ニ通知シ事急ナルトキハ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ但シ別ニ定ムル警備規程ニ準據スヘシ

第十一條　宿直員ハ其ノ勤務中取扱タル事件ヲ宿直日誌ニ認メ翌日庶務課長ニ申報スヘク若シ翌日休暇ナルトキハ交替ノ者ニ必ス事務ノ引續ヲ爲シテ退出スヘシ

六　物品會計規程細則

大正十三年五月三日制定

第一章　總　則

第一條　物品ノ保管及出納ハ物品會計規則並文部省直轄各部物品會計規程ニ基キ本細則ニ依リ處理スヘシ

第二條　物品ハ其ノ性質及用法ニ從ヒ之ヲ大別シテ備品及消耗品ノ二種トス

第三條　各課又ハ特別教室ニ物品監守者及物品取扱主任者ヲ置キ物品ノ監守及消耗品ノ取扱ノ責ニ任セシムヘシ

第四條　前條ニ於ケル監守區域ハ學校長ノ定ムル所ニ據ル

第五條　物品ハ總テ記號ヲ付スヘシ但シ物品ノ性質形狀ニ依リ記號又ハ番號ヲ付シ難キモノハ此ノ限リニ在ラス

第二章　保管及出納

第六條　物品ノ保管及出納ハ學校長ノ命令ニ依リ物品會計官吏之ヲ行フ

第七條　通常所要ノ物品ハ物品會計官吏ニ於テ一箇年ノ所要高ヲ豫定シ學校長ノ決裁ヲ受ケ一回又ハ數回ニ取纏メ購入ノ手續ヲ爲シタル後之ヲ藏置シ請求ニ應シテ支給スヘシ

第八條　臨時所要ノ物品ハ各課又ハ特別教室ノ請求ニ依リ物品會計官吏ニ於テ其ノ都度學校長ノ決裁ヲ受ケ購入ノ手續ヲ爲シ之ヲ支給スヘシ

第九條　生產及寄贈ニ係ル物品ハ物品會計官吏ニ於テ見積價格ヲ付シ學校長ノ決裁ヲ經テ受入、藏置若ハ

支給ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條　各課及特別教室ニ於テ所要ノ物品アルトキハ別ニ定ムル物件所要通告票ニ品名、數量及所要ノ事由ヲ詳記シ尙該主席者ノ檢印ヲ受ケ會計課ニ請求スヘシ但シ圖書ニ在リテハ圖書課ニ請求スルモノトス

第十一條　學術上機械ノ製作及修理ニ特殊ノ注意ヲ要スルカ又ハ當業者ヲ選擇スル必要アルモノハ圖案及仕樣書ヲ添ヘ會計課ニ請求スヘシ

第十二條　會計課ニ於テ物品ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ物品會計官吏ヲ經テ學校長ニ提出シ受入及支給ノ命令ヲ受クヘシ但シ場合ニ依リテハ其ノ數量ヲ減シ又ハ請求ニ應セサルコトアルヘシ

第十三條　圖書課ニ於テ物品ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ物品會計官吏ヲ經テ學校長ニ提出シ受入及支給ノ命令ヲ受クヘシ

第十四條　會計課ニ於テ物品ヲ請求者ニ支給セントスルトキハ物品支給命令票所定欄ヘ領收印ヲ徵シ請求者ニ交付スヘシ

第十五條　物品監守者及物品取扱主任者ハ物品監守簿及消耗品受拂簿ヲ設ケ物品ノ交付ヲ受ケタルトキハ其ノ都度之ヲ登記シ備品ニ在リテハ其ノ備付場所ヲ監守簿ニ記載シ常ニ其ノ所在ヲ明ニシ消耗品ニ在リテハ職員各自ノ請求ニ應シテ之ヲ支給シ帳簿ノ當該欄ニ領收印ヲ徵スヘシ

第十六條　各課及特別教室ニ於テ物品ノ不用ニ屬シタルモノアルトキハ直ニ會計課ニ返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條　物品會計官吏ノ前條ノ返付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ將來使用ノ見込アルトキハ保管ノ手續ヲ爲シ使用ノ見込ナキトキハ處分案ヲ具シ學校長ノ裁決ヲ請フヘシ

第十八條　物品ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ物品監守者ハ其ノ事實ヲ詳記シ物品會計官吏ヲ經テ學校長ニ申報スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ學校長ノ裁定ヲ得責任者ヲシテ之ヲ修理セシメ又ハ代品若ハ代價ヲ辨償セシムルモノトス

第十九條　自然毀損ノ物品ニシテ修理ノ上使用ノ見込アルモノハ修理ヲ請求シ其ノ見込ナキモノハ返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條　物品監守者及物品取扱主任者交代シタルトキハ前任者後任者立會ノ上引繼ヲ爲シ備品監守簿又ハ消耗品受拂簿ニ引繼年月日ヲ記シ且記名捺印スヘシ

第二十一條　物品會計官吏ハ物品出納保管ヲ明ニスル爲左ノ帳簿ヲ置クヘシ

一　普通備品出納簿
一　圖書出納簿
一　機械出納簿
一　標本出納簿

證票ニ基キ出納ヲ記入シ在庫及共用物品ノ現在ヲ明ニス

一　消耗品出納簿

證票ニ基キ物品ノ出納ヲ記入シ在庫及消備高ヲ明ニス

第二十二條　共用中ノ物品ハ物品會計官吏ニ於テ左ノ各號ニ依リ之ヲ監督スヘシ

一　各課又ハ特別教室ノ消耗品受拂簿ヲ毎月一回消耗品出納簿ニ照査ス

二　毎年一回物品出納簿備品監守簿消耗品受拂簿ニ依リ各課又ハ教室ニ付キ現品ヲ査閲シ學校長ニ報告スヘシ

三　前號ノ調査ニ於テ物品ノ亡失毀損ヲ發見シタルトキハ學校長ニ申告シ其ノ處理ヲ求ムヘシ

第三章　檢閲

第二十三條　物品檢閲ヲ分チテ定期、臨時ノ二トス

定期檢閲ハ毎年八月之ヲ施行シ臨時檢閲ハ臨時必要ノ場合ニ之ヲ施行ス

第二十四條　物品檢閲員ハ委員長一名委員若干名トシ學校長職員中ヨリ之ヲ命ス

第二十五條　物品檢閲員ノ檢査スヘキ事項左ノ如シ

一　物品保管ノ適否

二　備品使用ノ適否

三　消耗品消費ノ有無

四　物品缺損ノ有無

五　帳簿ト現品トノ對照

六　其ノ他必要ナル事項

第二十六條　物品檢閲ノ際ハ在庫品ニ付テハ物品會計官吏使用中ノ物品ニ付テハ物品監守者又ハ物品取扱主任者其ノ席ニ列シ檢閲委員ノ質問ニ答フヘシ

第二十七條　物品檢閲員ニ於テ檢査上故障ナシト認メタルトキハ簿冊ニ檢印シテ之ヲ證スヘシ若シ故障アルトキハ當該責任者ヨリ始末書ヲ徴スルコトアルヘシ

第二十八條　物品檢閲委員ハ其ノ檢査ヲ了シタルトキハ檢査顚末書ニ意見書ヲ付シ學校長ニ申告スヘシ

七　圖書閲覽室規則

大正十五年六月二日制定

第一條　圖書閲覽室ニ入ルコトヲ得ルモノハ左ノ如シ

一　本校職員及舊職員

二　本校生徒及卒業生

三　校長ノ許可ヲ得タルモノ

第二條　圖書閲覽室ハ日曜日、大祭祝日及本校所定ノ休校日ヲ除キ毎日之ヲ開ク但シ試驗中其ノ他必要ト認メタルトキハ休日ト雖モ特ニ之ヲ開クコトアルヘシ

第三條　圖書ヲ閲覽セントスル者ハ所定ノ用紙ニ必要事項ヲ記入シテ圖書課係員ニ差出スヘシ但シ本校生徒ハ圖書閲覽票ヲ添付スルコトヲ要ス

第四條　閲覽者ハ借覽圖書ヲ漫リニ閲覽室外ニ携出スヘカラス

第五條　閲覽者ハ借覽圖書ヲ他人ニ轉貸スヘカラス

第六條　閲覽者一人ニテ一時ニ閲覽スルヲ得ル圖書數ハ之ヲ制限スルコトアルヘシ

第七條　閲覽者ハ室内ニ於テ左ノ各項ヲ嚴守スヘシ

一　喫煙、音讀、雜談、食事等總テ他人ノ妨害トナルヘキ行爲ヲナサヽルコト

二　制服又ハ袴ヲ着用シ、靴又ハ草履ヲ穿ツコト

三　帽子、外套、マント、襟卷等ヲ着用セサルコト

四　卓子、腰掛等備附品ノ位置ヲ變更セサルコト

五　圖書閲覽ニ必要ナキ物品ヲ携ヘ入ルヘカラサルコト

第八條　前條ノ規定ニ違背シタルモノ其ノ他不都合ノ行爲アリタルモノハ退去セシムルコトアルヘシ

八　受持教官規定

昭和五年四月制定

一　本校生徒ヲ分チテ受持教官ニ配屬セシム

二　受持教官ハ生徒主事ト共ニ其ノ受持ノ生徒ノ入學ヨリ卒業ニ至ルマテノ一切ノ輔導ニ當ルモノトス

三　生徒ノ配屬ハ學校長之ヲ定ム但シ生徒入學ノ際保證人ヨリ豫メ受持教官ヲ指定シテ申出ツルトキハ差支ナキ限リ之ヲ認可スヘシ

四　受持教官ハ生徒主事及學級主任教官ト聯絡シ出來ルタケ受持ノ生徒ニ接シ其ノ修學健康其ノ他諸般ノ事情ヲ知悉シ生徒主事ト圖リテ其ノ身上相談ノ相手トナリ指導誘掖ニ當ルモノトス

五　受持教官ハ其ノ受持ノ生徒ノ保證人トノ聯絡ヲ圖リ生徒ノ家庭トノ關係ヲ親シクシ生徒ノ身上ニ關シテ互ニ腹藏ナク其ノ相談ニ與ルモノトス

職

員

第五職員

（昭和八年八月現在）

學校長	文學士	新保寅次 新潟
教授		
數學	理學士	下田卯市 廣島
獨語	文學士	中島一郎 石川
漢文	文學士	飯田御世吉郎 福岡
國語	文學士	北島葭江 岡山
英語	文學士	雜賀忠義 和歌山
英語	文學士	鳴澤寡愆 新潟
獨語	文學士	清家美材 愛媛
物理、數學	理學士	仲瀨善太郎 京都
歷史、國語	文學士	星野歲馨 山口
獨語	文學士	山下秩光 埼玉
化學、自然科學	理學士	池田英苗 廣島
國語 兼生徒主事	文學士	濱本勝治郎 京都

◎職員

◎職員

法制及經濟　法學士　上浦種一　和歌山
英語　文學士　山本外吉（在外研究中）　石川
物理、數學、自然科學　理學士　志茂山保光　京都
論理、獨語　文學士　長島喜三　神奈川
哲學、獨語　文學士　日高第四郎　東京
歷史　文學士　中原與茂九郎　岡山
化學　兼生徒主事　理學士　比企修　福井
英語　文學士　小日向幹夫　東京
植物、動物、自然科學　理學士　渡邊清彥　靜岡
鑛物及地質、自然科學　理學士　鈴木正利　茨城
圖畫、地理　文學士　松本正六　廣島
漢文　（兼）生徒主事　文學士　佐中壯　鳥取
歷史、漢文　理學士　山崎喜重郎　愛媛
數學　文學士　森義孝　愛媛
心理、獨語

生徒主事

國語　（兼）教授　文學士　演本勝治郎　京都
化學　（兼）教授　理學士　比企修　福井

漢文　兼教授　文學士　松本正六　廣島

配屬將校

教練　步兵第十一聯隊附陸軍步兵中佐　朝比奈三郎　千葉

助教授

體操　兼生徒主事　陸軍步兵特務曹長　池上喜作　靜岡

書記

垂水延秀　石川
木村國太郎　廣島
須田勇助　群馬
山野岩吉　鹿兒島
柳奧郁郎　廣島
池上喜作　靜岡

生徒主事補　（兼）助教授

傭外國人教師

獨語　ドクトル　ヴルテル・ドーナート　獨逸
英語　チヤールス・ウヰンスロブ・カツブ　米國

講師

◎職員

◎職員

英語　文學士　大谷正信　島根
修身　文學士　堀江久勝　長野
英語　文學士　藤井達之　廣島
體操　陸軍步兵特務曹長　松谷安藏　茨城
教練　陸軍步兵大尉　石川伊雄　三重
教練　陸軍步兵少尉　新野作平　福岡
圖畫　廣島高等師範學校講師　原貫之助　福岡
圖畫　廣島高等工業學校教授　工學士　西山福治　高知
動物　廣島高等師範學校教授　理學士　晴山省吾　岩手
國語　廣島文理科大學教授　文學士　鈴木敏也　愛知

武道教師

弓道　松木鶴太郎　福岡
柔道　中西文三　德島
劍道（兼）講師　陸軍步兵特務曹長　松谷安藏　茨城

事務囑託

三佐尾貫一　廣島
倉本臺　廣島

雇

石川武雄　廣島
石原糾　岡山
小田宮美視　廣島
川上全　廣島
住本憲明　廣島
宮川泰雄　廣島
淺村好雄　廣島
柴田正之　廣島
古川清德　廣島
兎田造地　廣島

校醫

縣立廣島病院醫員　日本醫學士　山崎曉成　廣島

學級主任

文科第三學年甲類一組　教授　雜賀忠義　和歌山
文科第三學年甲類二組　教授　日高第四郎　東京
文科第三學年乙類　教授　清家美林　愛媛

◎職員

◎職員

理科第三學年甲類　教授　下田卯市　廣島
理科第三學年乙類　教授　渡邊清彦　靜岡
文科第二學年甲類一組　教授　長島喜三　神奈川
文科第二學年甲類二組　教授　佐中壯　鳥取
文科第二學年乙類　教授　山下秩　埼玉
理科第二學年甲類　教授　仲瀨善太郎　京都
理科第二學年乙類　教授　池田英苗　廣島
文科第一學年甲類一組　教授　鳴澤寮愚　新潟
文科第一學年甲類二組　教授　小日向幹夫　東京
文科第一學年乙類　教授　中島一郎　石川
理科第一學年甲類　教授　鈴木正利　茨城
理科第一學年乙類　教授　山崎本喜重郎　愛媛

事務分掌

教務課　課長　教授　上浦種一　和歌山
　書記　須田勇助　群馬
　雇　宮川泰雄　廣島

生徒課　課長　生徒主事兼教授　松本正六　廣島
　教授兼生徒主事　濱本勝治郎　京都
　教授兼生徒主事　比企修　福井
　助教授兼生徒主事補　池上喜作　靜岡
　講師兼教師　松谷安藏　茨城
　講師　石川伊雄三重　廣島
　講師　新野作平　岡山
　寄宿寮動務囑託　三佐尾貫一　廣島
　雇　石原斜岡　岡山

庶務課　課長　教授　上浦種一　和歌山
　書記　柳奥郁郎　廣島
　雇　小田宮美覩　廣島

圖書課　課長　教授　鳴澤寮愚　新潟
　書記　垂水延秀　石川

◎職員

◎職員

主任

會計課

雇柴田正之 廣島

雇古川清德 廣島

雇兎田造地 廣島

書記木村國太郎 廣島

書記山野岩吉 鹿兒島

囑託倉本臺 廣島

雇川上全 廣島

六六

生徒

第六生徒

一生徒氏名

文科第三學年甲類一組

柏原足立主	兵庫	廣島第二	金澤政雄	廣島	
廣島第一	伊藤國臣	島根	大洲菊坂堯雄	愛媛	
山陽石田保三	廣島	廣島第一	木村守	廣島	
呉第一	碓井熹次	廣島	山陽草本榮次郎	廣島	
德山潤間道一	山口	呉第一	財滿功	廣島	
福山誠之館	上森齋	岡山	廣高師附	鹽見正三	島根
廣島第一	大島正男	廣島	廣高師附	須賀井敏行	廣島
廣島第一	黃地勉	廣島	廣島第一	高曲敏三	廣島
廣島第一	太田勝三	廣島	修道	高田甚宗	廣島
山陽大野喜久	廣島	松山	帶刀正雄	島根	
福山誠之館	岡本毅	廣島	福山	辻由明	廣島
廣島第一	加川正行	廣島	龍山	津郡正敏	大阪

岩國	豊島邦生	山口			
廣島第一	中井英智	廣島			
上野	中林孝文	三重			
廣島第一	中村克正	廣島			
京城	永島孝雄	山梨			
呉第一	西俣信比古	奈良			
府中	原田芳夫	廣島			
修道	楾末男	廣島			
廣高師附	疋田英肇	廣島			
呉第一	廣本善次郎	廣島			
廣高師附	福永陽二	廣島			
廣島第一	細川正美	鳥取			

廣島第一　三宅守一　岡山
廣高師附　村上一　島根
畝傍　森川富治　奈良
廣高師附　山本登　廣島

文科第三學年甲類二組

吳第一　穴吹光次郎　廣島
廣島第一　井澤馨　東京
廣島第二　岩本幹三　廣島
津山　內田三士　岡山
廣島第一　岡本悟　廣島
廣島第一　沖田恒男　廣島
廣島第一　小田謹一　廣島
三次　金井利博　廣島
畝傍　木田靖　奈良
福山誠之館　北村信男　廣島
廣島第一　紺田俊雄　熊本
廣島第一　坂重隆　廣島
尾道　島居清　廣島
新庄　島津義夫　島根
廣高師附　杉田虔二　廣島
尾道　世古正文　三重
廣島第一　高世日出男　東京
廣高師附　長亨　廣島
山陽　仲島守　廣島
廣島第一　中田光五郎　兵庫
鹿島　中根肇夫　靜岡
廣島第一　中村數夫　廣島
津山　中江健　岡山
專檢　中峠國夫　廣島
山陽　原井仲太郎　廣島
修道　原田清　廣島
山口　原田隆　熊本
廣高師附　日高一　鹿兒島
廣島第二　福永忠秋　廣島
廣高師附　福原靜男　廣島
第一神戶　藤村敏夫　大分
廣島第二　古川二郎　福島
忠海　松浦道一　廣島
修道　松本旭　廣島
粉河　御木茂高　和歌山
廣高師附　森本信雄　廣島
吳第一　山本正三　神奈川
廣島第一　横田八郎　廣島
廣島第一　横山正臣　廣島

文科第三學年乙類

大連第一　秋山眞一郎　栃木
修道　荒井弘毅　愛媛
廣島第二　岩崎護三　山口
修道　岩間敏生　廣島
廣島第二　上野千秋　廣島
小野　上原一夫　兵庫
德島　牛山啓二　長野
吳第一　大江果　廣島
福山誠之館　岡本仁　廣島
修猶館　大島毅一　鹿兒島
廣島第二　大野慶治　廣島
廣高師附　蒲池文雄　熊本
廣高師附　清原宣雄　大分
柳井　國森光夫　山口
崇德　黑田達也　廣島
廣島第二　坂本義光　廣島
豐中　島谷一郎　大阪
廣島第一　下程正造　廣島
廣島第二　末田修一　廣島
廣島第一　鈴木達也　廣島
秋田　鈴木一　秋田
廣島第一　砂堀明　廣島
廣高師附　高橋一次　廣島
廣高師附　田川博三　廣島
甲陽　辻輝久　大阪
青森　中野正治　愛媛
大正　中本重則　廣島
廣高師附　西順藏　鳥取
德島　西野寬次郎　德島
廣島第一　原田正典　山口
廣島第一　福永拓造　廣島
廣高師附　藤本洋　廣島
崇德　山手光　廣島
高校資試　吉岡新　山口
德島　吉田兼男　德島

理科第三學年甲類

廣高師附　石田茂　廣島
旅順第一　生田努　山口
柏原　稻次悌二　兵庫

諏山誠之館	上野勇	廣島	廣島第一
廣島第二	大島侃	廣島	廣高師附
廣島第一	岡村誠三	山口	廣島第一
修道	小田正登	廣島	廣島第一
修道	香谷登平	廣島	廣高師附
廣島第一	大坪朝男	佐賀	廣島第一
關西	笠石正	岡山	廣高師附
千葉	貝塚敏彌	千葉	廣島第一
小野	河合泰治	兵庫	吳第一
廣島第一	菊崎政夫	廣島	長府
平塚	吉川義三	島根	廣島第二
廣高師附	久保光	廣島	廣島第一
吳第一	子幡弘之	廣島	島原
廣島第二	近藤孝美	廣島	吳第一

理科第三學年乙類

中津	秋吉英彦	大分一住	吉
蘆田	淳	兵庫一廣島第二	伊
藤	彰	廣島	

	坂井正二	廣島	廣島第一
	佐々木毅一	山口	廣高師附
	鈴木精一	東京	門司
	辰野正登	廣島	廣島第一
	田邊健二	廣島	吳第二
	寺光昇	廣島	廣島第一
	西原虎夫	愛媛	天王寺
	野田泰雄	廣島	勝所
	橋本五雄	廣島	門司
	野啓一	山口	東京第六
	時男	廣島	修道
	東原朗	大阪	廣島第二
	久柴伊代治	長崎	廣島第二
	平本新正	廣島	

	御井保	山口	木久雄
	前川良三	廣島	
	丸子一雄	福岡	
	水谷良三	廣島	
	鴻落由己	廣島	
	皆川多喜造	兵庫	
	三田章	大阪	
	森乾六	滋賀	
	安武明	熊本	
	久夫	東京	
	弘	廣島	
	横竹太郎	廣島	
	渡邊省三	廣島	

武生	岩堀嘉治	福井	尾
徹文高普	尹昌鉉	朝鮮	山口
廣島第一	植木竹次郎	廣島	廣島第二
廣島第一	上原康夫	廣島	福岡
修道	右近文三	廣島	廣島第一
廣島第一	尾會魁文亮	廣島	山口
竹田	小川驥	香川	大阪桃山
臺南第一	尾崎侑	新潟	和歌山
北豫	尾澤朝一郎	愛媛	廣島第二
廣島第一	景山博文	廣島	日彰館
吳第一	門信雄	廣島	吳第一
岩國	藏野克已	山口	崇徳

甲府	細田壽郎	山梨	金春眼藏
小玉廉彦	岡山	吳第一	堀井法三
佐々木弘	廣島	修道	益田義行
静岡	澤木蟲	徳山	水木博
柴田八郎	廣島	廣島第一	水野博
種村等	廣島	新宮	宮地徹
兵庫	島野豊	京城	武藤明
吉永一郎	廣島	廣島第一	山國村敏夫
芳野滋	山口	萩	高東敏機
和田錬作	岡山	廣島第一	高橋圭爾
平野博	廣島		多幾山琢二

文科第二學年甲類一組

吳第一	安部哲郎	廣島	第三神戸
廣島第一	石井規矩男	廣島	廣島第一
廣島第一	井上術	廣島	廣高師附

廣島第一	片桐博	廣島	大志万敬寧
徳山	片山壯衛	山口	大杉俊郎
廣島第一	河野正義	廣島	大田盛三

天王寺 小谷和成 鳥取
東京第七 堺正一郎 東京
修道 白石秀男 廣島
今治 杉村灑 愛媛
日本 竹內虔太郎 岡山
柳井 多田正男 廣島
吳第二 頓田克美 廣島
柳井 中柴仲總 山口

廣島第二 永井清量 廣島
廣島第一 長屋敏郎 廣島
萩 西田俊道 山口
大連第一 花本修 廣島
興文 福島滿 愛媛
廣島第一 藤田五郎 京都
廣島第一 三佐尾正二 廣島
福山誠之館 光成太郎 廣島

忠海 宮武元宣 香川
世羅 森義雄 廣島
廣島第一 森田正三 京都
廣高師附 安田義彥 廣島
廣高師附 山田守 廣島
吳第二 橫田整三 廣島
廣陵 李燧煤 臺灣

文科第二學年甲類二組

釜山 赤坂正義 廣島
廣島第二 石田貢 廣島
修道 上田廣江 廣島
廣高師附 牛尾重信 廣島
廣島第一 大內義仁 廣島
廣島第二 勝谷喜久三 廣島
神戶第一 木村正孝 兵庫

今宮 熊井清 大阪
府中 黑木正 廣島
岩國 小林七郎 山口
廣島第二 近藤博之 廣島
吳第二 齋藤玉夫 廣島
廣島第一 酒井壽尙 廣島
廣高師附 佐方正 廣島

福山誠之館 坂本政一 廣島
廣高師附 佐々木惠一 山口
廣島第一 正田誠一 廣島
日彰館 鈴岡一枝 廣島
修道 高橋俊彥 廣島
廣高師附 田口昌弘 茨城
德山 田中宗夫 山口

山陽 東間善明 廣島
廣高師附 戶田勝 廣島
福山誠之館 中島史郎 岡山
豐中 中森增三 大阪
新庄 西岡康之 廣島

吳第一 服部了治 廣島
福山誠之館 原仁 鳥取
廣高師附 廣渡恒美 福岡
廣高師附 見門博 廣島
吳第二 宮川亨 廣島

修道 村田登 廣島
福山誠之館 門田積 廣島
修道 森田正 廣島
三次 橫田正次 愛知
萩 渡邊知正 山口

文科第二學年乙類

廣島第一 淺賀正夫 岐阜
修道 荒木武 廣島
大連 荒木長芳 富山
山陽 岡本重康 島根
廣高師附 上川洋 廣島
修道 片山信之 德島
青山學院 紀聯東 臺灣
廣島第一 吉川專心 廣島
太田公立 倉元百太郎 廣島
修道 小見山博 京都

山陽 佐崎英友 山口
修道 妹尾盛男 廣島
天王寺 高倉善兵衛 大阪
廣島商業 高田治一郎 廣島
下關 塚田俊夫 群馬
修道 中丸傑 廣島
廣高師附 永井健造 廣島
尾道 新田素直 廣島
福山誠之館 貫井民治 廣島
第一神戶 林太郎 兵庫

吳第一 檜原彌久 廣島
廣島第一 兵頭進 愛媛
修道 平岡四郎 廣島
豐浦 福久清 山口
大連第二 松本清 廣島
廣島第二 松島博 廣島
吉田 丸城浦男 愛媛
廣高師附 宮川政 廣島
廣島第一 向井義郎 廣島
廣島第一 森保祐光 廣島

廣高師附	山內一男	廣島	高松	吉田正明	香川	修道	廣田豪佐 大分
廣高師附	山本利	廣島	德山	吉松丑治	山口		
廣島第一	吉田一	大分	廣島第一	吉本康二	廣島		

理科第二學年甲類

吉田	赤松和夫	愛媛	廣島第一	重滿通豫	廣島	修道	新見芳男 廣島
大連第一	淺原一朗	東京	廣島第一	清水洋三	廣島	撫養	納田眞次郎 德島
今宮	石榑繁	岐阜	福山誠之館	白石登	愛媛	廣島第一	福本實 廣島
下關	江良貞夫	山口	德山	末武爾郎	山口	岸和田	藤田政市 大阪
第三神戶	大原誠作	兵庫	廣島第一	炭田春雄	廣島	明石	丸尾信雄 兵庫
柏原	岡村岩男	兵庫	廣島第一	高橋八洲雄	廣島	吳第一	毛利圭太郎 熊本
廣島第一	片山高義	長崎	虎姬	高山兵治	滋賀	廣島第一	森信一夫 廣島
廣島第二	川谷豐彥	大分	吳第一	辰己博	奈良	修道	守屋茂義 廣島
萩	木藤正典	山口	廣高師附	田邊和	廣島	第一神戶	柳原直彥 兵庫
廣島第一	木村正昭	廣島	廣島第二	遠木幸成	廣島	廣高師附	横山政美 廣島
新庄	坂本清	島根	廣島師附	戶津川良雄	廣島	廣高師附	吉田武夫 廣島
吳第一	佐川秋人	廣島	尼崎	豐田長生	三重	東筑	吉田弘 福岡

吳第一	養祖元次郎	廣島	吳第一	渡邊正紀	廣島		

理科第二學年乙類

府中	有地康太	廣島	德山	水津謙二	山口	修道	藤木浩 熊本
廣島第二	飯田襄治	廣島	廣島第一	瀧藤正之	廣島	水口	前田靜男 神奈川
豐浦	伊藤四郎	山口	撫順	立川牧夫	廣島	吳第二	松田昌雄 廣島
嘉穗	稻富清	福岡	虎姬	田中治朗	滋賀	市岡	松本庄平 大阪
福山誠之館	大平康二	廣島	廣島第一	土井憲策	廣島	長岡	三浦正 新潟
第一神戶	岡田正二	岡山	修道	永井幹男	廣島	廣島第一	村上省三 廣島
廣島第一	尾越俊三	廣島	山陽	鍋島治	廣島	廣島第二	森藤九兵衛 島根
吳第一	大村敏	兵庫	廣島第一	濱田澄三	廣島	第二神戶	森波勝 兵庫
柳井	兼廣正三	山口	吳第一	林良三	廣島	大連第一	山川正雄 新潟
新義州	高路勉	廣島	今治	平井美之	廣島	府中	吉岡威 廣島
修道	近藤眞弘	廣島	廣高師附	廣渡敬也	福岡	萩	芳野泰禮 山口
福山誠之館	坂田勝人	廣島	桃山	房前正	大分	廣島第一	吉永正敏 廣島
廣島第二	坂谷達郎	廣島	廣島第一	藤井昇	廣島	京城第一高普	李重春 朝鮮
德山	坂本克巳	山口	姬路	藤井保寶	大阪		

文科第一學年甲類一組

尾道	安保大藏	廣島	福山	河井茂	廣島	柳井	早川三鈴 三重
和歌山	伊井智鳳	和歌山	廣島第一	菅中庸	廣島	廣島第一	福田京一 島根
廣高師附	石井重雄	廣島	廣島第二	木村嘉七郎	廣島	福山	藤井剛 廣島
廣島第一	伊藤壽雄	廣島	廣陵	久保崎靜人	廣島	福山	星野幸次 廣島
八尾	井上賢次	大阪	廣高師附	清水浩	廣島	天玉寺	本城格 三重
福井	大賀一郎	熊本	今治	曾我部清	愛媛	廣島第一	松野思無邪 廣島
廣島第一	大澤馨	廣島	吳第二	田中滿次	廣島	廣島第一	松原卓三 廣島
吳第二	大瀨戸新治	廣島	大連第一	寺延忠雄	廣島	上田	宮下宗雄 長野
京都第二	小川智證	和歌山	京都桃山	富田昌壽	熊本	福山	門田岬 廣島
山陽	奥田朝一	廣島	廣島第一	中川惠一	廣島	武雄	山田格男 廣島
世羅	御輿員三	廣島	廣島第一	中村善夫	廣島	濱田	安江勝 島根
濱田	笠原亨二	島根	吳第一	野間保	廣島		
岩國	嘉屋實	山口	修道	野村義茂	山口		

文科第一學年甲類二組

廣島第一	青井彰	廣島	崇德	黑田敬友	廣島	廣高師附	西本篤武 廣島
第一神戸	石光顯吾	兵庫	崇德	河埜純孝	廣島	吳第一	花田豊 廣島
甲府	石塚正光	栃木	廣高師附	新谷敏之	廣島	第二神戸	林文二 山口
廣島第一	今中加奈夫	廣島	廣島第二	瀨良文夫	廣島	崇德	藤井玉恩 廣島
廣島第二	梅田正義	廣島	修道	竹本努	廣島	岩國	松田輝人 山口
丸龜	江戸仁之助	香川	修道	舘弘志	岡山	福山	宮野弘次 廣島
萩	大島康正	東京	府中	辰巳正吾	廣島	京都第一	村田四郎 大阪
大連第一	岡崎政一	和歌山	廣高師附	田中俊彦	廣島	麻布	山上善郎 東京
德島	尾上和夫	德島	岩國	田淵毅	廣島	廣高師附	山下卓 廣島
廣島第二	小畑一郎	廣島	上宮	谷本孝道	廣島	廣高師附	吉野良一 廣島
廣島第一	金田健一郎	廣島	廣島第二	俵千秋	廣島	山陽	渡邊克己 岡山
廣島第一	金森脩	島根	府中	千葉照夫	廣島		
三次	國原角三	廣島	東京府立第五	中村慶爾	廣島		

文科第一學年乙類

廣島第二	相澤健	埼玉	修道	大田正之	廣島	甲陽	大村茂雄 福井
廣島第一	入江誠次	廣島	濱松第二	大庭英男	靜岡	廣陵	小河內孝男 山口

◎座　徒

廣島第一	梶谷清太	廣島	風鳴
愛知第一	加藤大二	愛知	廣高師附
丸龜	錄田正隆	香川	第一神戸
廣島第一	岸田悟	廣島	今治
北野	木部崎隆	大阪	修道
廣高師附	桐原孝	廣島	廣島第一
幷築	後藤太止	大分	大正中
吳第一	向坂太郎	京都	吳第二中
廣島第二	佐久間正雄	廣島	千葉中
都城	佐々木鴻郷	宮崎	福山那須
京都桃山	佐田祐次	山口	廣島第一奈良井

廣島師附	長谷川雄一	新潟	園田圭祐
振順	佛圓正	廣島	高橋陸郎
廣島第一	三川榮	廣島	瀧川慶作
廣島第一	滿井修司	廣島	武內茂夫
廣島第一	元山清人	廣島	竹田達夫
廣島第一	山新繁雄	廣島	土井常明
廣高師附	山本太郎	石川	中井正義
廣高師附	橫濱完二	廣島	中塚俊郎
府中	橫山元晴	廣島	村三郎
浩		廣島	須守

理科第一學年甲類

東京府立第一	秋田正彌	東京	吳第一岡
池田	石井義仁	德島	忠海大
修道	齋六郎	廣島	廣島第一大
廣島第二	今田逸三	廣島	修道角

豐中	國吉正夫	千葉	岡山誠二
修道	舩野順三	廣島	廣島第一
廣島第一	河野一郎	山口	廣高師附
後藤典夫		岡山	

廣島第一	小早川昌平	廣島	廣島第一寺
群	山佐藤史	廣島	豐浦澁
廣島第一	佐伯義夫	廣島	吳第二友
山陽	篠原敏夫	岡山	萩頓
廣高師附	新宮忠雄	島根	廣高師附中
廣島第一	隅出良之	廣島	廣高師附山
吳第一	多幾山隆史	廣島	修道中
京都第三	森島正夫	京都	吳第二長
天王寺	玉井洋	愛媛	德山溫

廣島第一	西弘治	廣島	東原五郎 大阪
浦	澁崎正德	大分	吳第一堀向豐明 廣島
廣島第一	友井重俊	廣島	美農利雄 廣島
野	頓幸夫	山口	廣高師附宮島尙 富山
廣島第一	中川勉	廣島	廣廣第一山崎元典 廣島
廣島第一	山崎純平	廣島	廣島第一山下喜正 廣島
海	南柳美治	和歌山	

理科第一學年乙類

豐浦	厚正喜	山口	長崎小田稔 長崎
福山	有木英正	廣島	廣島第二龜井幸男 宮城
修道	井川昌次郎	廣島	吳第一嘉屋富雄 山口
日彰館	石田義明	廣島	吳第二木下博史 廣島
愛知第一	伊藤文雄	三重	虎姬草野孝二 滋賀
廣島第一	大林省三	廣島	臺北第一唐仁原景美 宮崎

廣島第二	桑野茂	廣島	廣島第一高橋晴雄 廣島
廣高師附	脇野渡	廣島	
廣高師附	小林典章	廣島	
廣島第一	島筒康夫	廣島	
福山	杉浦武朗	廣島	

◎座　徒

廣島第一 武田顯治 廣島
福山 立神誠三 岡山
小野 玉川保 兵庫
和歌山 土橋正二 和歌山
吳第一 中鹽清之 廣島
廣島第二 中村健次郎 廣島
伊都 名迫邦雄 和歌山

高津 西島輝雄 島根
吳第一 野間夬之 廣島
廣島第一 平原龍雄 廣島
第一神戶 菅井正朝 兵庫
廣島第一 藤田雄二 廣島
柳井 松本正典 山口
福山 宮地鐵也 廣島

山陽 棟田薫 廣島
廣島第一 幸野博 廣島
修道 柳澤義幸 廣島
廣島第二 山田正實 廣島
青島日本 山本寬勝 山口

二 在學者本籍府縣別表

府縣名	文科	理科	計
秋田	一	—	一
宮城	—	一	一
福島	一	—	一
群馬	一	—	一
茨城	一	—	一
栃木	二	—	二
埼玉	一	—	一
千葉	—	二	二
東京	五	四	九
神奈川	一	一	二
靜岡	二	一	三
山梨	一	一	二
新潟	一	四	五
富山	一	一	二
福井	一	一	二
石川	一	—	一
長野	二	—	二
愛知	三	—	三
岐阜	一	一	二
滋賀	—	四	四
京都	五	一	六
三重	四	二	六
奈良	三	一	四

和歌山	四	四	八	一六	二一
大阪	一〇	六	一三	一五	三一五
兵庫	八	一三	七	一五	四
岡山	八	七	一二三	一五	四
廣島	一九二	一二三	一	四	一五
鳥取	四	一	五	四	六
島根	一〇	五	二四	六	六
山口	二二	二四	一	六	一五
香川	五	一	二	五	六
德島	四	二	五	四	九
愛媛	一〇	五	五	三	八
福岡	一	四	四	一	二
大分	五	三	一	一	一
熊本	五	一	一	一	三
宮崎	一	一	一	二	二
佐賀	一	一	一	一	一
長崎	十	三	三	五	五
鹿兒島	二	一	二	二	二
朝鮮	一	二	二	二	二
臺灣	二	一	二	二	二
計	三三一	二三四	五六五	五六五	五六五

三 入學者學歷別表

年度	科類	入學者 中學四年修了 昭和八年	入學者 中學四年修了 同七年	入學者 中學四年修了 同六年	入學者 中學四年修了 同五年	入學者 中學四年修了 昭和四年以前	入學者 中學卒業 昭和八年	入學者 中學卒業 同七年	入學者 中學卒業 同六年	入學者 中學卒業 同五年	入學者 中學卒業 昭和四年以前	入學者 計	同上百分比 中學四年修了 昭和八年	同上百分比 中學四年修了 同七年	同上百分比 中學四年修了 同六年	同上百分比 中學四年修了 同五年	同上百分比 中學四年修了 昭和四年以前	同上百分比 中學卒業 昭和八年	同上百分比 中學卒業 同七年	同上百分比 中學卒業 同六年	同上百分比 中學卒業 同五年	同上百分比 中學卒業 昭和四年以前	同上百分比 計
文科		二六	—	—	—	—	四二	二八	五	—	三	一〇四	二五、〇〇〇	—	—	—	—	四〇、三八五	二六、九二五	四、八〇八	—	二、八八五	一〇〇
理科		九	—	—	—	—	四〇	一八	五	—	一	七三	一二、三二九	—	—	—	—	五四、七九五	二四、六五八	六、八四九	—	一、三七〇	一〇〇
計		三五	—	—	—	—	八二	四六	一〇	—	四	一七七	一九、七七四	—	—	—	—	四六、三二八	二五、九八九	五、六五〇	—	二、二六〇	一〇〇

四生徒年齢別表（昭和八年五月二十七日現在）

種別	最高年齢		最低年齢		平均年齢	
	文科	理科	文科	理科	文科	理科
新入生	二三、二年月	二二、八年月	一三、一年月	一三、一年月	一六、三年月	一六、三年月
第一學年	三三、二	三二、八	一三、一	一三、一	一六、二	一六、九
第二學年	三三、二	三三、二	一四、〇	一四、〇	一六、九	一六、一
第三學年	三四、二	三三、二	一六、三	一六、二	二〇、一	二〇、一

卒業生

第七卒業生

（卒業生各頭書ニ（東）法トアルハ東京帝國大學法學士、（京文トアルハ京都帝國大學文學部在學者ヲ示ス）

昭和二年三年十日卒業（第一回）

文科甲類

（京）法　蘆田英雄　兵庫
（東）經　東田以德　廣島
（京）經　安藤忠雄　廣島
（京）經　石井英夫　廣島
（東）經　伊藤秋生　廣島
（京）文　伊藤員馬　廣島
（京）經　井上正作　兵庫
（東）經　牛尾二郎　廣島
死亡　宇都宮壽　愛媛
（東）法　小川清矣　愛媛
（京）經　南崎五男　宮崎
（京）法　大久保忠昌　靜岡
（東）文　太田晉次郎　岡山

（東）文　河野光男　廣島
（京）法　數山英一　富山
（東）法　岸本文博　福岡
（京）經　北　彰　廣島
（東）法　木地雄吉　大阪
（京）經　栗宗繁　廣島
（東）經　古賀要　福岡
（京）經　後藤文雄　廣島
（東）文　小日向恒夫　東京
（京）法　小松正次郎　高知
（京）法　近藤常夫　香川
（東）法　佐伯弘　廣島
（京）文　篠村周三　廣島

（京）經　佐々木勇藏　大阪
（東）法　潮村浪雄　山口
死亡　重野覺　山口
（京）法　末田豐　東京
死亡　末盛衛　廣島
（東）經　杉丙三　山口
（東）經　關口勝太郎　廣島
（京）經　高浦慣顯　廣島
（京）經　田坂省三　山口
（東）法　田島義治　神奈川
（京）法　立本肇　廣島
（京）經　田中實稻　高知
（京）文　谷本勉　廣島

◎卒業生

(東)經 辻 完 廣島
(東)經 富狹 工 廣島
(東)經 中東 實 廣島
(京)經 新延譽一 廣島
(東)經 橋本三三 廣島
(京)法 林 友壽 廣島
(東)法 原田 正 兵庫
(京)文 原田正雄 廣島
(京)法 平賀五男 廣島

(京)經 廣澤健二 富山
(東)文 廣谷千代造 廣島
(京)法 藤永龍雄 廣島
(東)經 堀川八郎 廣島
(東)經 綾田整治 香川
(京)法 松室建雄 兵庫
(京)經 坂部泰代 京都
(東北)法 松本信一 山口
(京)經 三井眞一朗 愛知

(東)經 宮下弘史 廣島
(東)經 村上哲夫 廣島
(東)經 森田正輝 廣島
(東)法 山川 肇 廣島
(東)法 山口一夫 廣島
(京)經 山本 照 廣島
(東)文 和田庸三 滋賀

文科乙類

(東)法 伊藤日出雄 廣島
(京)文 岩根保重 山口
(東)法 衛藤干城 大分
(東)文 奥平英雄 廣島
(京)文 大角良雄 大阪
(京)文 加計敏吉 廣島

(東)法 山下 中 廣島
(東)文 川島正亮 廣島
(京)法 木村幸一 廣島
(京)文 楠木 保 廣島
(東)法 久留島 孜 廣島
(東)經 兒島義彦 廣島

(京)經 酒井正夫 廣島
(京)法 佐藤秀雄 廣島
(京)文 下程勇吉 廣島
(京)文 宗義三太 福岡
(東)法 武田邦雄 廣島
(東)法 垂水 巖 大分

(東)法 德永秀夫 廣島
(京)文 土家良夫 京都
(京)法 戸野原史朗 廣島
(東)法 長岡彌一 廣島
(東)經 中川 壽 廣島
(京)文 古谷省三 山口

(京)文 平田 弘 熊本
(京)經 福島 武 東京
(東北)法文 福田幹雄 山口
(京)文 富士川義彦 廣島
(京)經 松岡 功 大分
(京)經 松田堅三 鹿兒島

(東)經 三上 新 廣島
(京)經 村上勝三 廣島
(京)經 村上 弘 山口
(京)法 横田千二 大分

理科甲類

(東)醫 足立 忠 北海道
(東)農 池内貞慶 廣島
(京)農 今村 新 廣島
死亡 打海秀夫 廣島
(東)理 岡村 確 廣島
(九)農 大熊義一 兵庫
(東)工 川崎辰國 廣島
東北理 川瀬秀夫 廣島
(東)理 神田 清 愛知

(東)農 倉茂英次郎 新潟
九工 貫田 武 廣島
(東)工 玄道啓三 廣島
(東)工 宍戸 修 廣島
(東)工 杉浦正美 靜岡
(東)工 仙頭 忠 廣島
(東北)理 竹内元一 廣島
(京)文 田中政吾 廣島
(京)工 田中良太郎 滋賀

(京)農 玉木義彦 廣島
(九)工 手島義勇 大分
(東)農 寺田庄次郎 廣島
(京)農 辻 康彦 廣島
(京)經 長坂世雄 廣島
廣文理 中村金介 岡山
死亡 根本廣明 福島
(東)工 牧島五郎 山口
(京)理 松本德智 廣島

◎卒業生

(東)工　水野嘉勝　廣島一　(同)醫　山崎三省　廣島一

理科乙類

死亡　荒田三郎　山口　(同)醫　藏本養三　廣島
(日)醫　有吉三男　山口　(京)醫　近藤建雄　廣島
岡醫　栗屋一歩　廣島　(千)醫　佐々猛　岡山
(京)農　石原琢郎　廣島　(九)醫　杉岡直登　廣島
(千)醫　大谷義夫　廣島　(東北)理　高木通泰　廣島
死亡　川本悟　廣島　(名)醫　中川政信　廣島
(京)醫　川本重雄　廣島　(長)醫　永田友諒　長崎
(九)法文　金應鉉　朝鮮　(京)經　鍋島尚三　廣島
(長)醫　熊巳四郎　廣島　(京)理　林彌兵衛　山口

昭和三年三月十日卒業（第二回）

文科甲類

(京)法　安藝英二　香川　(京)法　伊東正　山口
(京)法　池高勛　廣島　(京)文　今村新太郎　東京
(京)經　井內松一　廣島　(東)法　岩村喜代人　廣島

(九)醫　津田秀雄　廣島
(京)醫　東田巧　廣島
(京)醫　福井正雄　山口
岡醫　松本孝雄　岡山
(東北)理　宮本義男　山形
(九)農　行友憲次　山口
(名)醫　波多野克己　廣島

(京)文　惠美知定　廣島
(東)文　小川惠正　愛知
(東)法　太田正　廣島

(京)經　大東守太郎　福岡
(東)經　神田正夫　廣島
(京)經　冠稔實　廣島
死亡　龜井藤吉　高知
(京)法　川崎正夫　廣島
(東)經　北川四郎　廣島
(九)法文　木地本辰助　廣島
(東)經　吉川雅　廣島
(京)經　栗田磐三　兵庫
(京)經　栗原彌太郎　埼玉
(東)經　笹本忠恕　靜岡
(京)經　佐藤勝三　愛媛
(京)法　佐藤二郎　大阪
(東)文　澤野武馬　廣島
(京)文　三光迪　廣島
(東)文　篠田隆治　靜岡
(京)法　下野一市　廣島

(京)法　山村仁策　山口
(東)經　角南登三太　岡山
(京)經　大樂嘉一郎　山口
高規紀男　廣島
(東)經　龍田靜夫　廣島
(京)法　玉木仲彥　廣島
(東)經　鼓義男　山口
(京)經　津野一郎　大阪
(京)經　坪井義男　香川
(東)經　長江道太郎　岡山
(京)法　仲野修　大阪
(東)法　長尾篤　愛媛
(京)經　二井內嘉德　廣島
(東)經　孝　山口
(京)文　西谷四郎　廣島
(京)法　西岡定　廣島
(東)經　野村宥三　廣島

(東)經　秦正夫　廣島
(京)法　花本藏之助　廣島
(東)經　馬場春雄　廣島
(京)文　林茂　廣島
(東)法　山河正人　廣島
(東)法　福島逸雄　熊本
(東)經　福原邦輔　廣島
(東)法　橘小八郎　和歌山
(京)法　藤井香　廣島
(東)經　船岡鐵司　廣島
(東)法　正木巽　廣島
(京)經　松島綏　廣島
(京)經　松本博　廣島
(京)文　眞鍋義雄　愛媛
(京)法　南丘千卷　和歌山
(東)法　三原績　廣島
(東)法　村上國平　山口

(京)法 本村浩 鳥取
(東)經 守川成太郎 山口
(京)法 森田文五 廣島
(東)文 森本忠雄 高知
(京)文 安江茂三郎 岐阜

(東)經 矢田鴻一 山口
(京)法 柳田俊雄 京都
(京)法 山岡春三 廣島
(京)法 山根彦治郎 廣島
(東)法 山本義明 愛媛

(京)法 芳川壽夫 廣島
(京)法 李鐘湮 朝鮮
(東)法 渡里今市 廣島
(京)法 渡利全策 島根

文科乙類

(東)法 天野常次郎 廣島
(東)文 植田敏郎 廣島
(京)法 岡本正信 福井
(京)法 大島一幸 岡山
(京)文 小田切香苗 栃木
(東)法 加藤武夫 廣島
(東)法 上垣内武 兵庫
(東)法 熊谷英麿 廣島
(東)法 熊野德次郎 廣島
(京)法 兒玉壽雄 熊本

(東)文 小林四郎 廣島
(東)法 杉原靜雄 廣島
(京)文 諏澤太郎 廣島
(京)法 染谷敏 埼玉
(京)法 谷本義二 香川
(京)文 德澤龍潭 廣島
(東)經 朝長光 長崎
(京)法 難波忠晴 岡山
(京)經 葉田秀二 兵庫
(京)法 藤田文三 廣島

(東)法 原武夫 島根
(東)經 播本福一 廣島
(京)法 福山嗣良 廣島
(京)法 藤田次郎 大阪
(東)法 古田郁郎 岐阜
(京)法 逸見顯善 東京
(東)文 溝手佐 廣島
(京)文 宮本清 愛媛
京經 宮本滋 和歌山
(九)法文 矢野泰 愛媛

東文 山本宗本 埼玉

理科甲類

(長)醫 池田岩雄 廣島
(京)農 泉克己 廣島
(京)農 井東敬三 廣島
(京)醫 井口哲 廣島
(東北)工 岡田幸雄 廣島
(京)農 岡田勗 廣島
(東)醫 小河九一郎 廣島
(廣)文理 織田秀雄 廣島
(東)農 落合英一 栃木
(東)工 太田佐久良 島根
(京)理 木村太郎 廣島
(京)工 國安虎雄 京都

死亡 楠原哲之助 廣島
(東)工 重滿通彌 廣島
(東)農 新原清明 廣島
(東)工 鈴木良雄 廣島
(東)理 竹内義孝 島根
(東北)理 瀧元 廣島
(東)工 千柄實勇 廣島
(京)農 友宗忠雄 廣島
(東)農 永井行夫 廣島
(東)工 長尾準三 廣島
死亡 仲佐信 千葉
(東)工 中村清臣 兵庫

(東)工 林良作 廣島
(東)農 福原忠信 廣島
京理 松島勝 廣島
(京)農 松丸勳 鳥取
(京)工 宮下俊二 兵庫
(東)工 村上末雄 廣島
死亡 森河信敏 廣島
東醫 守友豊治 山口
(京)法 李在熙 朝鮮
(東)工 若林兵滋 廣島

理科乙類

(岡)醫 井上雄吾 廣島
(九)農 池田一美 廣島
名醫 片山信 山口

(東北)工 龜石計夫 和歌山
大醫 川居德治 兵庫
(京)農 久賀俊文 廣島
(京)醫 久保田靜雄 廣島
大醫 兒玉安郎 廣島
大醫 清英夫 東京
(九)醫 齋藤章 廣島
(東)醫 酒井皐二 島島
(京)農 信濃榮 兵庫
(岡)醫 高野惠 廣島

大醫 田中繁巳 廣島
(千)醫 寺崎由太郎 東京
(九)醫 中川太郎 廣島
(九)醫 中川道太朗 滋賀
死亡 灘光清 廣島
(岡)醫 鍋島清志 廣島
(東)醫 新延信吉 廣島
名醫 西原清一 廣島
(岡)醫 新田司郎 廣島
京醫 兵頭通方 愛媛

(京)理 藤井正道 廣島
(九)醫 益田霞 廣島
(長)醫 三木征治 福岡
(京)醫 水野宗之 廣島
(東)農 宮鄉吉之助 廣島
(東)農 藥師神嘉雄 愛媛
京府醫 米川清三 廣島
千醫 渡邊六郎 愛媛

昭和四年三月十日卒業（第三回）

文科甲類

(京)法 青江秀治 岡山
淺野巧美 石川
(神)商 新井吾六 廣島
死亡 池田秀夫 香川

(京)法 龜井邦人 兵庫
(京)法 石岡利男 廣島
(九)法文 石川政太郎 愛媛
(京)文 井出岩太 愛媛

(東)文 石光葆 廣島
(東)經 伊保木啓三 京都
(神)商 植松正久 香川
(九)農 江本哲雄 山口

東法 岡田勣 廣島
京經 奥村堯 廣島
(東)法 大塚進 廣島
(神)商 小川敬邦 廣島
(京)文 角野達堂 福井
京經 (京)法 柏木啓一 福島
(東)法 加藤政一 廣島
(京)法 加納利忠 福井
(東)文 河村橘雄 山口
(東)法 川野敏夫 岡山
(東)法 河本重藏 廣島
(東)法 管俊夫 愛媛
(京)經 菊池武雄 福島
(京)法 木村三郎 廣島
東經 北村秀雄 大阪
(東)文 佐伯保 廣島
(京)法 佐久間茂 廣島

(東)經 佐々木邦彥 廣島
(京)法 佐田健一 山口
(東)法 佐野勤 廣島
(京)經 島原健一 大阪
(東)文 妹尾健 廣島
東經 高井彌 靜岡
(東)經 高垣忠雄 廣島
(京)法 高橋英明 廣島
(東)經 高山昇 山口
(東)文 竹田平 山口
(神)商 建林正喜 山口
(東)法 寺光忠 廣島
(東)法 中村敏 德島
(京)經 中山清二 兵庫
(東)經 永井治郎 廣島
(京)法 灘井巖 廣島
(東)經 西原眞良 廣島

東法 西村勝矣 山口
(神)商 引地富男 廣島
(京)文 久富貢 福岡
東文 平田忠敏 廣島
廣實正 廣島
(神)商 深田毅 福島
(東)經 藤田正夫 廣島
(京)法 船越健二 京都
(京)文 三谷久男 三重
京文 水梨彌久 福島
(神)商 三戶肇 兵庫
(京)文 向井寬 廣島
(廣)文理 本崎淹己 廣島
(東)經 森脇幸次 廣島
(京)經 守谷恒美 廣島
東法 八木鐵夫 媛愛
(京)文 柳川眞一 兵庫

(東)法	山田秀雄	東京
(京)法	山地秀夫	廣島
(京)經	山邊論吉	奈良
京文	山本義明	香川

文科乙類

(京)經	青森和雄	廣島
(一九)法文	秋本敏夫	山口
(東)文	飯田秀世	福岡
(京)法	伊藤一郎	大阪
(神)商	井上悌次	香川
(京)經	大下直次郎	廣島
(京)法	大谷志氣夫	德島
(京)經	岡崎俊夫	廣島
(東)法	小田邦美	廣島
(東)法	吉川鼎	廣島
(京)經	倉本剛三	廣島
(京)文	湯川龍造	廣島
(京)法	横山文三	廣島
(東)文	吉木一夫	山口
神商	李永植	朝鮮
(京)法	脇本定已	廣島
(東)文	渡邊哲夫	宮城
(東)文	國近貞男	廣島
(京)法	藏田藏	福岡
(京)法	黑河衛	廣島
(京)法	黑田豐次	廣島
(京)法	渡邊正巳	廣島
(東)法	兒玉士清	廣島
(京)法	酒井節司	廣島
(京)法	坂田正五	廣島
(東)文	後原憲一	德島
(東)法	關重夫	香川
(京)法	高屋浩之助	京都
(京)經	立川竹次	廣島
(京)經	寺尾一幹	廣島
東經	鶴見達三	長野
(京)經	野口英一	鳥取
(京)文	羽白幸雄	廣島
(東)法	廣中英太郎	山口
(京)法	日浦石雄	大分
(京)法	福本克巳	廣島
(東)文	富士川英郎	廣島
京經	賣神嗣雄	廣島
(京)法	正木又男	廣島

東法	松山軍一	廣島
(京)文	三登義雄	廣島

理科甲類

(京)工	有本欣二	和歌山
(東)農	伊東弘	山口
(東)工業	井上昇	廣島
岡醫	大川富雄	大阪
東醫	小田廣美	廣島
(東)工	奥田周策	廣島
京醫	折田良隆	廣島
(廣文理)	木下敏之	廣島
(東)農	金東燮	朝鮮
東農	龍野勇喜雄	和歌山
(東)工	黑瀨行義	廣島
京理	島田拓示	廣島
(京)經	杉一誠	愛媛
京法	山形桂太郎	福井
和栗	博	岡山
(九)農	高田雄之	廣島
(長)醫	田中屋久吉	山口
東醫	田部辰	廣島
京醫	谷原一義	廣島
(東)工	玉井英雄	愛媛
(京)工	津田晃	兵庫
長醫	津田昇兵衛	奈良
(廣文理)	手島志郎	廣島
(長)醫	德永等	廣島
(東)農	中川哲三	廣島
(京)理	稻村邦雄	廣島
(京)工	西谷民雄	廣島
(九)工	西村文造	廣島
京農	野澤正雄	石川
(長)醫	濱口正雄	廣島
東醫	林俊吉	愛媛
京醫	原穰	神奈川
(京)工	廣段積	廣島
(京)工	福田正雄	廣島
長醫	藤井正房	山口
(廣文理)	前川力	兵庫
(長)醫	前田實	廣島
(東)農	正木拾已	兵庫
(京)理	矢野義雄	京都
(京)工	行友誠	廣島
(九)工	渡邊襄	福島

◎卒業生

昭和五年三月十日卒業（第四回）

文科甲類

千	相澤活世	埼玉	(岡)醫
(日)醫	青木棟夫	三重	(千)醫
(岡)醫	赤松金四郎	廣島	京 醫
京理	秋光健一	廣島	東 醫
(京)醫	稻本晃	和歌山	(九)農
(京)理	內田熙	岡山	岡 醫
(東)醫	高津忠夫	廣島	京府醫
九農	大谷桃太郎	廣島	京 農
(東)醫	大村良造	鳥取	岡 醫
岡醫	岡部政之	廣島	(京)醫
大 醫	片山楠雄	廣島	九 醫
(東)理	梶山正登	廣島	東 醫
(九)醫	城戸義人	福岡	京 醫
金 醫	栗田有三	兵庫	東北醫

小泉三郎	廣島	岡醫	平本憲雄 廣島
兒玉健男	山口	東醫	藤岡定 廣島
佐々木六朗	廣島	岡醫	松森哲夫 廣島
末岡一男	山口	(名)醫	丸山頼人 廣島
惣津律士	岡山	(東)農	宗藤哲 廣島
竹內榮次郎	愛媛	(京)醫	盛岡健一 鳥島
田中哲之助	鳥取	(岡)醫	森正久 廣島
田	采基朝鮮	(京)農	森田修二 滋賀
中村熊三	岡山	京 醫	石丸正勝 香川
名迫行弘	和歌山	(長)醫	山木戸貞道 廣島
名和田豊	山口	九 醫	渡邊琢一 愛媛
西原敏男	廣島	(岡)醫	和田直 京都
上田十郎	三重		
日比定雄	岐阜		

◎卒業生

文科乙類

東	有本正男	和歌山	京 文
九法文	池田新作	岐阜	(東)法
(京)法	池田業男	山形	(京)經
東法	井出武忠	廣島	京 文
(東)經	井東正一	廣島	東 法
東經	井上數夫	大分	東 法
(東)經	江崎猛	愛知	東 法
京 文	榎並敏春	廣島	(京)文
(神)商	煙石隼人	廣島	(東)法
京經	岡田敏雄	香川	(京)法
京 文	岡田壽之	廣島	(東)法
東經	越智岩夫	愛媛	(東)文
東北法文	大川信雄	東京	神 商
(京)法	大澤隆清	兵庫	東 法
(京)法	太田屹	岡山	(京)法
東 文	大谷秀水	福岡	京 文
(東)法	加島淳	廣島	

片綱勝	廣島		
城盛吾	廣島	(東)文	田村清 廣島
神下勝	香川	東 法	土屋忠一 岡山
川合雅久	廣島	(京)法	鄭四燮 朝鮮
神野止戈雄	愛媛	(東)文	寺川幸男 廣島
窪田智	鹿兒島	(京)法	寺原秀正 北海道
栗山醇三	奈良	東 文	所武雄 岐阜
小寺政太郎	京都	(廣)文理	戸田茂喜 廣島
齋藤陽	京都	(東)文	中川清 山口
齋藤榮三	大阪	東 文	中島隆次 佐賀
佐久間光三	廣島	(東)文	中原治 廣島
菅舒雄	廣島	東北法文	難波正 岡山
惣野彰	廣島	(東)文	南相塾 朝鮮
高橋靖彦	廣島	東 法	西龜元貞 廣島
武居政夫	長野	東 經	原田正行 廣島
田坂寛	廣島	(東)法	平地寛次 廣島
田原貞	岡山	(東)文	藤井達之 廣島

玉置道夫 鹿兒島

(東)文	馬淵 茂	福岡	東法
死亡	満井 達	千葉	(京)文
東法	水島 勉	兵庫	東文
(廃)文理	水野幾雄	廣島	(京)経
(京)文	水野秀夫	香川	(京)法
(東)法	三野重樹	福岡	(東)経
東経	宮川知良	廣島	(東)文

文科乙類

(東)文	相澤孝友	埼玉	(東)法
(東)法	足利義包	岡山	(神)商
(東)法	荒木正保	東京	京文
京法	伊藤譲爾	廣島	(東)文
(京)法	川止房吉	福井	(東)文
東経	加藤等	廣島	東経
(東)文	木本欽吾	廣島	東法
(東)文	久保隆美	香川	(東)文

(東)法	倉本明	廣島	(京)経
東経	古武彌彦	岡山	東経
京法	近藤忠	大分	(東)法
(京)法	佐々木利雄	廣島	(京)法
東文	重野英夫	山口	東文
(京)法	柴村万徳	廣島	(京)法
(東)文	鈴木信次郎	廣島	(京)法
東経	妹尾泰然	廣島	東経

東法	宮地 勉	廣島	京文
宮原治之		廣島	(東)法
村合正夫		岡山	死亡
村上一三		廣島	(京)文
村上仁人		廣島	東法
安信良二		廣島	(東)法
柳正實		福岡	(東)文

京文	山崎喜好	廣島	(東)法
(東)法	山田正隆	福井	死亡
山本實雄		廣島	(京)文
遊龜山英隆		廣島	東法
横山信之		廣島	(東)法
吉倉健治		山口	(東)文

(京)経	高橋渉	廣島	(東)法
東経	瀧口參男	千葉	(東)法
瀧野好曉		廣島	(京)法
立花俊雄		北海道	(京)法
田中保隆		山口	(京)法
千種虎夫		高知	(京)法
中村清次郎		大阪	東経
中山英一		滋賀	

(東)法	長戸寛美	東京	(東)文
(京)経	平瀬敏夫	廣島	東文
(東)法	藤井英麿	廣島	(東)経
京文	藤谷賜	愛知	(京)法
神商	松江仁壽	福島	京経

理科甲類

東工	赤松民也	廣島	京農
(九)工	荒木義彦	廣島	東工
東醫	石田二郎	愛媛	(東)工
京工	伊藤英一	東京	京農
(東)工	岩宮登	廣島	(九)工
(京)農	大澤喜勇	愛知	(東)工
京工	小原誠	東京	京工
東工	勝田敏治	廣島	京工
(京)農	金東煜	朝鮮	(京)経
京理	小池富男	廣島	長醫

(東)法	水野忠敏	香川	(東)法
(京)経	三宅善三	大阪	東経
(東)法	三宅保之	廣島	京法
京文	宗丈夫	廣島	吉村三次
神商	森俊二	愛媛	廣島

(東)工	金野逸郎	宮城	(東)工
佐伯精之		廣島	京工
篠原敏夫		東京	(京)工
志茂山貞二		京都	(京)工
杉江重雄		大阪	廣田春一
數納勳郎		廣島	(九)工
竹中英三郎		和歌山	東北理
多田義雄		廣島	東農
伊達亟夫		廣島	東理
伊達德美		廣島	(京)工

(東)法	安田巖	廣島	
山根泰二		廣島	
吉村三次		廣島	
玉木福宜		廣島	
塚本成之		大阪	
西川政一		大阪	
野間元誠次		廣島	
廣田春一		廣島	
福井經彦		廣島	
松本疆		廣島	
南方四郎和歌山			
三宅修三		廣島	
八木貞之助		京都	

九醫 山縣泰 山口
(京)農 湯川半三郎 京都

京工 吉井隆 熊本
李明熙 朝鮮

理科乙類

京醫 青木久司 廣島
京醫 芦田又四郎 京都
千醫 蘆原貞男 廣島
熊醫 荒瀬俊輔 廣島
京醫 池田接治 廣島
千醫 今井岸眞 廣島
京醫 植木保生 廣島
京府醫 大槻俊雄 愛媛
千醫 久賀冬鯉 廣島

京醫 柴田敏夫 山口
岡醫 高橋勳 廣島
九醫 土屋薫 廣島
岡醫 新本勇夫 廣島
長醫 萩島茂 茨城
岡醫 原良太郎 廣島
大醫 福永融 廣島
東醫 藤卷直意 新潟
東北醫 前川重和 和歌山

岡醫 前田哲夫 岡山
京醫 桝田忠雄 大阪
大醫 松田鎭雄 廣島
京醫 湊正男 秋田
岡醫 宮地重樹 廣島
東醫 宮本明道 廣島
九醫 本永正樹 廣島
京醫 吉田清史 京都

昭和六年三月十日卒業（第五回）

文科甲類

京經 青盛規矩二 廣島
東法 赤木二郎 廣島
京法 東秋郎 廣島

京法 石岡二郎 廣島
京法 井上光親 愛知
京經 今村眞三 廣島
京法 植田憲六 廣島
京經 上野淳一 大阪
京文 浦元芳一 兵庫
小川達哉 廣島
京法 大坪喜代太郎 佐賀
京法 大小田常夫 廣島
東文 長田龍 山梨
東法 織田恒 廣島
東文 加納秀夫 廣島
京經 川口隆三 大阪
京文 河野信一 廣島
京法 韓雄吉 朝鮮
京法 倉重達夫 山口
廣文理 栗田正治 愛知

東經 小橋博志 岡山
京經 佐々木益 廣島
京經 白石通一 愛媛
東法 妹尾茂喜 廣島
東法 大道寺好武 三重
東經 田坂猛 廣島
京經 棚田新一 廣島
京法 辻村仁三郎 山口
京法 豊岡勳三 廣島
東法 中井孝夫 廣島
東法 中塚健治 香川
京法 前田雄恭 奈良
京文 三上則威 山口
東經 三宅瑞彦 兵庫
京文 宮本壽 廣島
京法 藻鹽一海 廣島
死亡 守田省三 廣島

神商 山肩正夫 廣島
京法 山崎利基 廣島
京法 吉永清次郎 廣島
廣文理 名田清志 廣島
赤松正一 廣島
東經 朝枝誠兒 廣島
東經 荒川矼介 廣島
神商 板野龜八郎 岡山
九法文 井上稔 廣島
京文 岩田良美 廣島
京文 扇畑忠雄 廣島
東法 岡榮 廣島
京經 沖藤省三 廣島
京法 沖原東平 山口
小田二郎 山口
京法 龜田迪昌 廣島
東法 河野達吾 廣島

東法 小谷鶴次 兵庫
東經 齋藤武夫 廣島
京文 佐和隆研 廣島
東法 杉田亮造 廣島
京文 角井迪 山口
東文 高橋和夫 岐阜
廣文理 拓植實 三重
東文 辻茂雄 廣島

廣文理 土井悟 廣島
東文 中島清 廣島
東北法文 中西晃 鹿兒島
東北法文 永野鎭雄 廣島
京法 中本登 廣島
東文 中山照夫 廣島
東法 長山利久 廣島
東文 平川篤雄 廣島

東經 藤山千里 山口
京法 下沃柱 朝鮮
東法 堀川武雄 廣島
東經 松岡秀男 山口
京文 宮本喜一郎 廣島
東法 安永隆 山口
東文 若山巖 廣島
京法 湧邊三彌 山口

文科乙類

東法 赤木弘 山口
京法 生田司 大阪
京法 植月勇 岡山
廣文理 上村勇 廣島
京法 岡村乾三 廣島
京法 小川清 兵庫
小田生一 廣島

京法 大竹勝一 茨城
東經 大江元 廣島
京文 大栗傳三 德島
東法 梶川榮一 廣島
東文 神田道弘 廣島
東法 河相實 廣島
京法 木坂登一 廣島

東經 河野應介 廣島
東文 小西四郎 茨城
京經 後藤昇一 岐阜
廣文理 後藤武彥 大分
東北法文 齋藤進 島根
京經 島井敬三 廣島
京法 申烱圭 朝鮮

東法 高井時雄 兵庫
京經 田中清 京知
廣文理 玉岡忍 廣島
京法 寺本正文 廣島
京法 富和宗一 奈良
東法 永井純三 廣島
東文 中道幸雄 山口

京法 兒玉彊作 廣島
京文 新田養三 廣島
東文 濱田榮 廣島
京經 花田起志二 岡山
東北法文 福田史郎 山口
東文 藤井次郎 廣島
京經 古野升 大阪

東經 星出普太 山口
京法 增原改曆 廣島
京文 三浦廣吉 愛媛
東經 向井生三 廣島
東法 好並健司 岡山
神商 好永和雄 兵庫
東法 岡崎清記 廣島

理科甲類

岡醫 淺山秀夫 京都
九工 市田左右一 兵庫
九農 井上由扶 廣島
東理 江藤秀雄 東京
京農 岡順一 廣島
京農 岡川吉富 京都
東北工 大島景次 東京
東工 影浦正俊 愛媛

東工 川崎貞雄 廣島
東北工 神谷六郎 東京
東工 木谷賢莊 廣島
京工 北村市太郎 大阪
九農 熊谷秀逸 廣島
東北理 小崎正秀 愛媛
京理 坂本靜雄 廣島
千醫 澤井豊之助 奈良

東農 田中三郎 福岡
東理 津山尙 廣島
東工 中村常雄 廣島
京農 橋谷昊 北海道
九工 橋爪透 青森
京工 東原二郎 大阪
東工 藤井義六 廣島
東工 藤野淳 愛媛

◎卒業生

東工 三上良臣 佐賀
九工 水山嘉德 廣島
京農 三宅正 廣島

東工 村上敏夫 愛媛
東工 森佐一郎 廣島
大工 山田隆次 廣島

東工 山本恒雄 廣島
東工 横田浩一 廣島
京醫 吉田彌太郎 兵庫

理科乙類

長醫 天野俊雄 山口
岡醫 秋山頼光 廣島
京醫 池田勉 廣島
千醫 金子一夫 山口
東農 加納靜三 廣島
大醫 川島正史 廣島
高在珣 朝鮮
東理 黒川清 廣島
千醫 古賢公一 福岡
東醫 兒玉國美 廣島
大阪醫 佐伯安男 廣島

九醫 竹野内政男 廣島
長醫 玉井靜顯 廣島
東農 檀上勉 廣島
京工 津村宗治 兵庫
京理 塚本二郎 愛媛
熊醫 畠田谷武夫 廣島
慈惠醫 馬場英雄 廣島
東北理 濱井生三 廣島
京理 濱田穣 岡山
東醫 檜脇信三 廣島
福永光夫 廣島

京醫 細川卓郎 廣島
大醫 牧野幸男 香川
松浦喜佐雄 廣島
松原悟朗 山口
岡醫 三島利雄 廣廣
九醫 室谷高正 兵庫
新醫 望月紀之 廣島
京醫 矢崎貞雄 山梨
横山智 廣島
東理 庄山俊夫 三重
金醫 高橋卯 愛媛

昭和七年三月十日卒業（第六回）

文科甲類

東經 天野利夫 兵庫
東經 荒川政司 東京
京法 入江仁士 廣島
廣文理 岩佐正澄 德島
京文 大谷篤藏 鳥取
京法 大西喜四夫 奈良
京法 岡本淳 和歌山
東北法文 落合龍太郎 秋田
東法 神部孔憲 廣島
京文 北口倉太 三重
京法 木寺道輝 長崎
京法 國安信夫 廣島
東法 古宇田芳夫 茨城
東經 兒島俊太郎 兵庫

東文 河内山督治 山口
東文 小沼正 福島
佐々木秀二郎 島根
京法 高野増雄 福岡
京法 田中肇 山口
京法 富田親長 熊本
東經 中秀男 和歌山
京法 中野守 廣島
京文 鍋島俊成 熊本
京文 西原順太郎 大阪
京經 能登孝雄 廣島
京文 平井政忠 廣島
京文 弘美知生 山口
京經 弘松春海 高知

京法 堀口屯 三重
京法 牧野増一 大分
九法文 森口富士雄 山口
東經 山崎薫 京都
京文 山元憲治 山口
九法文 横山示 廣島
東文 石原直温 岐阜
京經 稲葉好夫 三重
京經 井上清 山口
京文 加藤祥一 愛媛
京經 金尾晃 廣島
京文 北山康夫 和歌山
東經 木下泰雄 廣島
東法 京極覺郎 廣島

◎卒業生

京法 黑瀨春樹 廣島
東經 桑垣二郎 島根
黃榮法 臺灣
京法 齋藤義雄 岡山
東法 櫻田靜務 廣島
京法 椙村一男 千葉
清木一雄 山口
東法 瀨戶茂 廣島
東法 田中秀夫 山口

京經 戶谷和夫 岡山
東法 豊原信夫 廣島
京文 中谷英雄 和歌山
京法 中野弘 和歌山
東法 根津信夫 廣島
廣文理 埜田淳吉 廣島
京經 信江孝一 岡山
京法 平田泰美 廣島
京文 藤高正 愛媛

京文 星野五十夫 廣島
京經 皆川一 茨城
京法 柳瀨篤 和歌山
京文 山形正雄 廣島
京法 山口清 東京
東文 山崎久之 廣島
東經 山戶壽也 廣島
九法文 結城秋市 廣島
京經 劉亨植 朝鮮

文科乙類

東文 飯田信光 福岡
京文 梅林正明 廣島
京法 岡信彥 和歌山
東經 大川忠一郎 靜岡
東經 大原榮一 廣島
東經 小田正二 岡山

東法 加藤豪 和歌山
東法 金友芳 廣島
京法 久保誠 廣島
京法 近藤照彥 廣島
神商 栗栖勇 廣島
京法 孝壽芳春 香川

東法 後藤穗 廣島
京法 齋藤實 岡山
東法 杉本行雄 廣島
東文 瀧川武 兵庫
東文 龍山無逸 廣島
京法 東岡義人 廣島

京法 土井義生 廣島
東文 內藤實 山梨
東北法文 中田正直 秋田
京法 中村卓 廣島
京法 西毅一 島根
廣文理 西原茂正 廣島

京文 秦恒雄 廣島
京法 濱田正義 大阪
京文 原尙武 岡山
京文 藤野涉 愛媛
東法 古川一郎 福島
京法 本田忠德 廣島

東文 松井忠夫 福岡
京文 三宅季二 香川
京文 村上次男 山口
京法 森本新三 和歌山
東文 米本三爾 廣島

理科甲類

千醫 相磯和嘉 靜岡
大醫 秋山和躬 德島
京理 東堯 東京
京農 伊藤健 廣島
岡醫 井野昌治 千葉
大醫 小上爲治 和歌山
金醫 尾山芳雄 富山
京理 國近三吾 廣島
大理 楠本健次 長崎

東工 玄道正夫 廣島
河野勇 廣島
廣文理 後藤安直 熊本
九工 鹽谷一馬 廣島
大醫 杉浦達也 愛知
東醫 鈴木胖 靜岡
京醫 近清憲一 德島
大工 土田稔 廣島
東工 津山滋 廣島

鶴崎敏胤 佐賀
福岡徹 廣島
東農 藤岡恒一 奈良
京工 藤本悟郎 香川
京農 星野修 大阪
東理 堀江忠男 大阪
大理 前田光 廣島
京工 間片泰平 三重
東北工 松村隆樹 大阪

京農 松平信治 京都
三戸左内 廣島
大工 三好正 廣島

京農 六車正實 香川
廣文理 村上滿洲男 廣島
九工 森堅太郎 廣島

京工 森恒忠 高知

理科乙類

熊醫 石井四良 廣島
京理 生駒一彦 岐阜
長醫 井内猛 山口
岩橋武 和歌山
熊醫 上野功 和歌山
千醫 江澤義彦 千葉
大醫 岡田五郎 廣島
太田肇 廣島
京農 小鹽正 廣島
大日方惟信 千葉
千醫 加賀美和忠 廣島
九醫 門英雄 廣島

河口清 廣島
國友鎰一 宮城
河野和彦 廣島
九醫 河野義光 廣島
岡醫 崔聖東 朝鮮
岡醫 眞田實 廣島
九農 高橋浩之 廣島
館林宣夫 長野
熊醫 田中明 岡山
京醫 大德幸夫 廣島
岡醫 土居清 廣島
大醫 土井傳 三重

東工 土肥元二 廣島
九醫 中濱欣時 廣島
大醫 中村覺 廣島
長醫 西田滋 山口
服部悅郎 長崎
慈醫 原田東岷 廣島
藤本馨 山口
大醫 八木武傳 廣島
長醫 山元三良 高知
東工 吉野宗次郎 滋賀

昭和八年三月十日卒業（第七回）

文科甲類

京文 秋山連大夫 兵庫
京文 淺賀秀夫 岐阜
京文 飯塚俊夫 島根
福經 飯森十郎 福岡
東法 井下田孝一 千葉
井上武雄 岡山
京經 入澤敏三 鳥取
京經 上田勇男 廣島
京法 上野友男 廣島
京法 上野秀雄 山口
京文 榎一治 福岡
小方友二 山口
小倉裕 京都
京法 大藤義人 山口

京經 折田義男 廣島
大屋五郎 福岡
海田稔 山口
東法 柏村壽雄 廣島
京法 金森俊雄 島根
鎌田道洋 鹿兒島
京經 韓熙穆 朝鮮
京法 川口博 廣島
東文 菊池謙一 和歌山
東文 久保良敏 佐賀
黑田一雄 岡山
東經 小西浩三郎 廣島
京文 河野正通 廣島
東經 財津孝正 東京

東經 坂口潔 三重
東經 定村直之 福岡
眞川淳 廣島
京法 徐廷植 朝鮮
神商 七田正夫 佐賀
京法 杉田有 三重
京法 杉若義一 和歌山
京法 鈴木幹雄 廣島
關口伊三郎 東京
東法 妹尾正一 岡山
東文 高橋啓介 大阪
京經 高橋義夫 廣島
京法 高橋嘉猷 廣島
京經 竹内正男 靜岡

◎卒業生

九法文	寺地訓造	廣島	京法
廣文理	徳永善造	熊本	東法
京文	鳥越良雄	山口	京經
東法	內藤陽二	廣島	
東法	中埜幸雄	京都	東文
	二木雅美	廣島	京經
東文	荻野源一	山口	九法文
京法	橋本吉之助	廣島	京經
京法	原田公平	兵庫	京法

文科乙類

東經	青木健	山口	
京法	青盛卓郎	廣島	京文
京法	石井義彦	岩手	東法
今澤正躬		香川	京文
東法	平松謙一	三重	東法
廣文理	波浩美	福岡	京法
京法	內藤政郎	三重	神商
福原忠雄		奈良	東法
福內政郎		三重	神商
藤井宏		德島	京法
藤岡春彥		東京	文
朴炳敎		朝鮮	京法
本庄正夫		兵庫	京經
眞武豊寬		福岡	京經
萬竹清		山口	東法
宮重左都夫		愛知	京法
岩上幸治		栃木	京法
植村文夫		三重	京法
撰司郎		廣島	京法
香川正信		香川	京文
御澤金彌		大阪	東法
光田幸夫		山口	京法
山木稔		廣島	京法
矢野久元		大分	東法
保田歡三		愛媛	神商
山下保市		岡山	京法
山登一男		廣島	
山口文吾		廣島	京經
山本薰		廣島	京經
山崎茂		廣島	東法
渡邊信		大分	京文
笠島重勝		東京	京法
桺田忠敬		東京	京法
河合庄之進		奈良	京法
久保田明治		廣島	文

◎卒業生

東北法文	小松原克之	廣島	京法
東法	佐藤忠雄	廣島	京經
京法	清水潔	廣島	京文
京文	澁谷龍雄	東京	
東文	住吉勇	廣島	京經
京法	高瀨隆	兵庫	東法
京法	長岡迪夫	廣島	京文

理科甲類

東工	淺野和夫	京都	九工
東工	井口建三	岡山	
東工	今井修之	廣島	京工
京工	上荷敬一	大阪	京工
東農	岡藤敬一	山口	大工
九工	久芳祥一	福岡	東工業
	小日向定夫	東京	
	佐々木茂	廣島	東工
法	永野萬壽夫	佐賀	廣文理
經	鍋島廣文	佐賀	京法
文	林新綠	廣島	廣文理
文	久林文芳	兵庫	京法
經	藤井楨三	廣島	京經
法	古島公明	埼玉	
文	堀江正治	長野	
工	篠野通德	島	
工	鹽谷龍二	山口	
工	宍戶二郎	廣島	九工
工	鈴岡獎	廣島	東工
工	鈴木正	北海道	東工
工	高橋清毅	廣島	長崎
	高見薰	鳥取	京理
工	多幾山一敏	廣島	東工
水野司郎		廣島	
村上淳一		鳥取	
八林秀三		廣島	
山口圭一		秋山	
山崎荒助		廣島	
和氣清嵐		廣島	
丹下健三		愛媛	
筑瀨懋		奈良	
堤穎雄		廣島	
富野井正		廣島	
中山一宏		島根	
西垣正彥		京都	
林茂樹		廣島	

◎卒業生

林克己	東京	東工
三戸義則	廣島	京理
峯恭平	長崎	東理

理科乙類

荒木久一	富山	熊醫
伊藤健治	山口	東理
稻本眞	和歌山	長醫
内村正雄	和歌山	九醫
岡村豪二	廣島	長醫
大杉哲三	廣島	千醫
嘉戸剛	廣島	熊醫
梶山茂信	島根	高橋渡	廣島	醫
久島諦二	山形	會人樸	臺灣	醫
古城朝彦	大分	鈴木敏	千葉	醫
河野正三郎	廣島	農	佐々木英信	香川	醫
作田礒郎次	三重	寺野六郎	廣島	佐藤眞次	廣島	醫
				坂井皐造	廣島	醫
				信夫洋太郎	宮城	農
				庄司春陸	廣島	長鄉鮮一	東京	農

村本忠夫	廣島	理
矢木永郎	東京	理
横井鎭男	廣島	理

吉田紀行	香川	工
友淵又右衛門	大阪	東理
鵜島琢	廣島	醫
藤井正一	兵庫	東醫
藤本遼	廣島	醫
三村光男	岡山	九醫
村上元孝	廣島	東醫
村上基千代	廣島	醫
望月省次	山梨	醫
森田愛之	廣島	九醫
森末信行	岡山	醫
安原綉太郎	廣島	醫
森田專一	廣島	九醫

渡邊彰 秋田一

養祖貞夫 廣島一

橫路慶英 廣島

卒業生大學進入表（昭和八年）

種別	文科卒業者 甲類	文科卒業者 乙類	文科卒業者 計	理科卒業者 甲類	理科卒業者 乙類	理科卒業者 計	合計
東大法學部法律學科	八	三	一一	三		三	一四
同 政治學科	一	一	二				二
東大經濟部經濟學科	二	一	三				三
同 商業學科	三		三				三
東大文學部東洋史學科	一		一				一
同 西洋史學科	一		一				一
同 印度哲學科	一		一				一
同 心理學科	二		二				二
同 倫理學科	一		一				一
同 國語文學	一		一				一
東大醫學部醫學科				一		一	一
東大工學部機械工學科				一		一	一

◎卒業生

| | | |

關係法規

第八　關係法規

一　高等學校令（抄）

大正七年十二月六日勅令第三八九號

第一條　高等學校ハ男子高等普通教育ヲ完成スルヲ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニ力ムヘキモノトス

第二條　高等學校ハ官立、公立又ハ私立トス

第七條　高等學校ハ修業年限ハ七年トシ高等科三年等常科四年トス

高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得

第八條　高等學校高等科ヲ分チテ文科及理科トス

第十二條　高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校等常科ヲ修了シタル者、中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十三條　高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以內等常科三百二十人以內トシ第七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以內トス

第十四條　高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スヘシ

一學級ノ生徒定數ハ四十人以內トス

第十五條　高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ敎授スルコトヲ得

第十六條　高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ヲ充ツコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條　高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並生徒ノ入學退學及懲戒、授業料入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第二十條　本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外高等學校ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ高等學校タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

附　則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

舊令ニ依ル高等學校ハ之ヲ本令ニ依ル高等學校トス

前項ノ高等學校ニハ當分ノ内第十三條ノ規定ヲ適用セス

二　高等學校規程（抄）

大正八年三月二十九日文部省令第八號

第一章　學科課程及教科書

第二節　高等科

第四條　高等科文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概說、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス

高等科理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、鑛物及地質、心理、法制及經濟、圖畫、體操トス

外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第五條　修身ハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奬スルヲ以テ要旨トス

修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ國家、社會、家族ニ對スル責務並人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ特ニ我國道德ヲ會得シ其ノ實行ニ努メシムヘシ

第六條　國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ智德ヲ啓發シ文學士ノ趣味ヲ養フヲ

以テ要旨トス

國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近世、近古及中古ノ國文ヲ授ケ進ミテ上古文ノ一般ニ及ホシ又普通ノ漢文ヲ講讀セシメ國語文法及國文學史ノ大要ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

理科ニ在リテハ近世及近古ノ國文並普通ノ漢文ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

第七條　外國語ハ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ニ依リテ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ兼テ智德ノ增進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字、讀方、譯解、話方、作文、書取及文法ヲ授クヘシ

第八條　歷史ハ重要ナル古今ノ事蹟ヲ知ラシメ邦國ノ盛衰、文化ノ發達ヲ理會セシメ特ニ我國運發展ノ由來國體ノ特異ナル所以ヲ明ニシ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

歷史ハ日本歷史、東洋歷史及西洋歷史ヲ授クヘシ

第九條　地理ハ我國及重ナル世界各國ノ現狀ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ我國及諸外國ノ政治、經濟等ニ關スル地理上ノ智識ヲ授クヘシ

第十條　哲學概說ハ思想界ニ關スル智識ヲ與ヘ哲學ノ概念ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

哲學概說ハ東洋及西洋ノ哲學、宗教等ニ就キテ其ノ大要ヲ授クヘシ

第十一條　心理及論理ハ心意ニ關スル智識ヲ得シメ思考ヲ鍛鍊セシムルヲ以テ要旨トス

心理及論理ハ各種ノ精神作用、思考ノ原則及其ノ方法ノ概要ヲ授クヘシ

第十二條　數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ文科ニ在リテハ數學諸論ノ大要ヲ授ケ理科ニ在リテハ代數、立體幾何、三角法、初等解析幾何、初等微分稍分及初等力學ヲ授クヘシ

第十三條　自然科學ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル智識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

自然科學ハ生物、地質、物理、化學等ニ關スル主要ナル事項ヲ授クヘシ

第十四條　物理、化學ハ自然ノ現象ニ關スル智識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシメ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察工夫ノ力ヲ養フヲ以テ要旨トス

物理ハ力學、物性、音響、熱、光、磁氣、電氣ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

化學ハ無機化學及有機化學ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十五條　植物及動物、鑛物及地質ハ天然物ニ關スル智識ヲ與ヘ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

植物及動物ハ生物ノ形態、生理、分類、進化ニ關スル智識ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

鑛物及地質ハ鑛物ノ產狀、性質、用途、地球ノ構成及其ノ變遷ニ關スル智識ヲ授ケ又便宜主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十六條　法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ必要ナル智識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常ノ生活ニ適切ナル法制上及經濟財政上ノ事項ヲ授クヘシ

第十七條　圖畫ハ形態ヲ正確且自由ニ畫クノ能力ヲ得シメ意匠ヲ鍊リ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

圖畫ハ自在畫、平面幾何畫、立體幾何畫ヲ授クヘシ

第十八條　體操ハ身體ヲ健全ニシ動作ヲ敏活ナラシメ剛健ノ精神ト規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣トヲ養フ以テ要旨トス

體操ハ教練及體操ヲ授クヘシ又劍道、柔道及弓道ヲ加フルコトヲ得

第十九條　文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	六	五	五
第一外國語	九	八	八
第二外國語	(四)	(四)	(四)
歷史	三	五	四
地理	二		
哲學概說			三
心理及論理		二	二
法制及經濟		二	二
數學	三		
自然科學	二	三	
體操	三	三	三
計	二九(三三)	二九(三三)	二八(三二)

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シクル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ毎週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一一	一〇	一〇
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	三一(三四)	三一(三四)	三〇(三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第二十條　理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ毎週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	四	二	
第一外國語	八	六	六
第二外國語	(四)	(四)	(四)
數學	四	四	四(二)
物理		三	講義三 實驗二
化學		三	講義三 實驗二

植物及動物	二	二	二	二	二	二	二	二
鑛物及地質								
心理								
法制及經濟								
圖畫	二	二	二	二	二	二	二	二
體操	三	三	三	三	三	三	三	三
計	二八（三二）	二八（三二）	二八（三二）	二八（三二）	二八（三二）	二八（三二）	二八（三二）	二八（三二）

第三學年ノ數學（二）及圖畫（二）ト第三學年ノ植物及動物（講義二實驗二）トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシムルモノトス

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム

此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週數授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一〇（三）	九（三）	九（三）
第二外國語			
計	三〇（三三）	三一（三四）	三一（三四）

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ數授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第四節　數授上ノ注意

第二十二條　高等學校ニ於テハ高等學校令第一條ノ旨趣ニ依リ生徒ヲ數育シ殊ニ國民道德ノ充實ニ關聯セル事項ハ何レノ學科目ニ於テモ常ニ留意シテ數授センコトヲ要ス

各學科目ノ數授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第五節　數科書

第二十三條　高等學校ノ數科書ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ（但書略）

第二章　學年、數授日數及式日

第二十四條　學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテトス但シ九月一日ヨリ翌年八月三十一日マテトスルコトヲ得

第二十五條　數授日數ハ（中略）高等科ニ在リテハ每學年二百日以上（中略）トス但シ次條ノ場合ニ於テハ此ノ限リニアラス

試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第二十六條　傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章　編制

第二十八條　（第一項略）

高等科ニ於テハ國語及漢文、外國語、數學ヲ數授スル場合ヲ除ク外學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ數授スルコトヲ得

第四章　設　備

第三十一條　高等學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備フヘシ

第三十二條　校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛生上害ナキ所タルヘシ

第三十三條　校舍ニハ教室、事務室其ノ他必要ナル實驗室、圖書室、器械室、標本室等ヲ備フヘシ

校舍ハ教授上、管理上及衛生上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第三十四條　校具ハ教授上必要ナル圖書、機械、器具、標本、模型等トス

第三十五條　高等學校ニ於テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ノ表簿ヲ備フヘシ

一　學則、日課表及教科用圖書配當表

二　職員ノ名簿及履歷書並擔任學科目及時間表

三　生徒學籍簿、出席簿、身體檢査ニ關スル表簿及入學延期又ハ徵兵猶豫ニ關スル書類

四　試驗ノ問題、答案及成績表

五　資產原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書、機械、器具、標本、模型ノ目錄

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族稱、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年卒業ノ年月日

入學試驗ノ有無、轉學退學ノ事由、徵兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

第六章　入學、在學、休學、退學及懲戒

第三十八條　生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以內トス

第四十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等科ノ入學ニ關シ中學校第四學年ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

一　他ノ高等學校尋常科ヲ修了シタル者

二　高等學校高等科入學實格試驗ニ合格シタル者

三　專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者

四　文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者

五　文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

前項ノ實格試驗ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四十四條　當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數高等科各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ入學前ニ於ケル學業成績ト中學校第四學年修了ノ程度ニ依リ行フ試驗ノ成績トヲ併セ考査シテ入學者ヲ選拔スヘシ但シ試驗ハ之ヲ行ハサルコトヲ得

前項ノ考査ノ外必要アリト認ムルトキハ入學志願者ニ對シテ人物考査ヲ行フコトヲ得

第四十五條　高等學校ニ於テハ入學志願者ニ對シテ身體檢査ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニ限リ入學セシムヘシ（但書略）

第四十六條　高等科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ當該學年ノ程度ニ於テ之ヲ檢定スヘシ

第四十七條　高等學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタル時ヨリ一年以內ニ於テ高等學校ニ入學ヲ志願シタル時ハ同一學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得

第四十八條　高等學校生徒ニシテ他ノ高等學校ニ轉學ヲ志望スル者アルトキハ關係學校長ノ協議ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得

第五十條（第一項略）

高等學校高等科各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試驗ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ

但シ正當ノ事由アリテ試驗ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ學業成績ノミヲ考査シテ之ヲ定ムルコトヲ得

試驗ハ學校長ノ見込ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十一條　學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十二條　學校長ハ高等學校高等科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書（中略）授與スヘシ

第五十三條　學校長ハ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可スヘシ

第五十四條　學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一　性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二　學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三　引續キ一年以上缺席シタル者

四　正當ノ事由ナクシテ引續キ一ケ月以上缺席シタル者

五　出席常ナラサル者

第五十五條　生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十六條　學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第八章　雜則

第五十八條　高等學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

一　學年、學期及休業日ニ關スル事項

二　學科課程、教授時數ニ關スル事項

三　課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

四　生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項

五　授業料、入學料等ニ關スル事項

附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

三　文部省直轄諸學校官制（抄）

明治二十六年八月二十五日勅令第八六號

第一條　文部省直轄諸學校ハ左ノ如シ

廣島高等學校（大正十二年十二月十日勅令第五〇一號改正追加）

（他校略）

第六條　文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教授

生徒主事（昭和三年十月二十九日勅令第二五六號改正）

助教授

書記

生徒主事補（昭和三年十月二十九日勅令第二五六號改正追加）

前項職員ノ外文部省直轄諸學校職員定員令ノ定ムル所ニ依リ助手ヲ置クコトヲ得

（昭和二年十二月二十七日勅令第三六五號改正追加）

第七條　校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第八條　教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

第九條　文部省直轄諸學校職員定員令ニ於テ生徒主事ノ專任定員ヲ配置シタル學校ノ生徒主事ハ奏任トシ其ノ他ノ學校

ノ生徒主事ハ當該學校ノ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒主事ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル

（昭和三年十月二十九日勅令第二五六號本條全文改正）

第十條　書記ハ判任トス上官ノ命ヲ受ケ庶務會計ニ從事ス

第十條ノ二　文部省直轄諸學校定員令ニ於テ生徒主事補ノ專任定員ヲ配置シタル學校ノ生徒主事補ハ判任トシ其ノ他ノ學校ノ生徒主事補ハ當該學校ノ判任教諭ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス

生徒主事補ハ上官ノ命ヲ承ケ生徒主事ノ職務ヲ助ク

（昭和三年十月二十九日勅令第二五六號改正本條追加）

第十條ノ三　助手ハ判任トス教授又ハ助教授ノ指揮ヲ承ケ授業及實驗ノ補助ニ從事ス

（昭和二年十二月二十七日勅令第三六五號改正追加）

第十七條　專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十九條　文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

附　則

第二十條　本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

四　文部省直轄諸學校職員定員令（抄）明治三十五年三月二十八日勅令九九號

文部省直轄諸學校專任職員ノ定員左ノ如シ

	校長	教授	生徒主事	助教授	書記	生徒主事補
廣島高等學校	一人	三十人	一人	三人	六人	一人

附　則

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（備　考）

大正十二年十二月十日勅令第五〇二號改正（校長、教授、書記、配置）
大正十三年四月二十八日勅令第九八號改正（教授增員）
大正十四年四月二十五日勅令第一四二號改正（教授、助教授、書記增員）
大正十五年七月五日勅令第二四九號改正（教授、助教授、書記增員）
昭和二年十二月二十七日勅令第三六六號改正（助手增員）
昭和三年十月二十九日勅令第二五七號改正（生徒主事、生徒主事補增員）
昭和七年十二月二十七日勅令第三九五號改正（助教授、助手減員）

五　高等學校教員規程（抄）大正八年三月二十九日文部省令第一〇號

第一條　高等學校高等科教員免許狀ハ本令ノ定ムル所ニ依リ教員檢定ニ合格シタル者ニ之ヲ授與ス

第十三條　高等學校高等科ニ於テハ教員數ノ三分ノ一以內ヲ限リ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

第十四條　體操ニ關シテハ高等科教員免許狀ヲ要セス

第十五條　高等學校高等科ニ於テ體操ヲ擔任スル教員ハ第十三條ノ關係ニ付テハ高等科教員免許狀ヲ有スル者ト看做ス

附　則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

六　文部省直轄諸學校雇外國人ニ關スル件

明治二十六年九月十一日勅令第九六號

帝國大學、官立大學、高等師範學校及文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アルトキハ（中略）直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得

七　陸軍現役將校學校配屬令（抄）

大正十四年四月十三日勅令第一三五號

第一條　官立又ハ公立ノ師範學校、中學校、實業學校、高等學校、大學豫科、專門學校、高等師範學校、臨時教員養成所、實業學校教員養成所又ハ實業補習學校教員養成所ニ於ケル男生徒ノ教練ヲ掌ラシムル爲陸軍現役將校ヲ當該學校ニ配屬ス但シ戰時事變ノ際其ノ他已ムヲ得サル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル將校ノ配屬ハ陸軍大臣文部大臣ト協議シテ之ヲ行フ配屬將校ハ教練ニ關シテハ當該學校長ノ指揮監督ヲ承ク

第三條　陸軍大臣及文部大臣ハ特別ノ事由アルトキハ本令ニ依ル將校ノ配屬ヲ止ムルコトヲ得

第四條　陸軍大臣ハ現役將校ヲシテ本令ニ依リテ將校ヲ配屬シタル學校ニ於ケル教練實施ノ狀況ヲ査閲セシムルコトヲ得

第六條　配屬將校傷痍病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ服務シ難キトキハ陸軍大臣ハ文部大臣ト協議シテ他ノ現役將校ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

八　陸軍現役將校學校配屬令施行規程（抄）

大正十四年四月十三日文部陸軍省令

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ現役將校ノ配屬ヲ止ムルコトアルヘシ

一（省略）

二　教練ノ成果ヲ擧クル見込ナキトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（個個）

九　文部省直轄諸學校長職務規程

大正二年六月二十三日文部省訓令

第一條　校長ハ判任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ稟申スルコトヲ得

第二條　校長事故アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第三條　左ノ事項ハ校長之ヲ專行スヘシ但シ第六號及第八號ニ關シテハ處分後文部大臣ニ報告スヘシ

第一　敎官ノ學科擔任及事務員ノ分課ヲ定ムルコト

第二　規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコト

第三　俸給月額八拾五圓以下ノ屬員ノ進退ニ關スルコト

第四　敎官以下ノ內國各地出張ニ關スルコト

第五　敎官以下ノ除服出仕謝暇ニ關スルコト

第六　講師ノ解嘱及其ノ報酬減額ニ關スルコト

第七　經費中ノ目ヲ流用スルコト

第八　三日以內ノ臨時休業ヲ爲スコト

第四條　前條ニ揭ケタル事項ノ外文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

一〇　學校醫、幼稚園醫及青年訓練所醫令（抄）

昭和四年三月十九日勅令第九號

第一條　各學校ニ學校醫ヲ置ク

第二條　學校醫ハ學校衛生ニ關スル職務ニ服ス

第三條　學校醫ハ官立ノ學校ニ在リテハ學校長（中略）之ヲ囑託ス

學校醫ハ醫師タルコトヲ要ス

第四條　學校醫ハ學校衛生ニ關シ監督官廳（中略）又ハ學校長ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

學校醫ハ學校衛生ニ關シ監督官廳（中略）又ハ學校長ニ建議スルコトヲ得

第五條　學校醫ニハ當該學校ノ經費ヨリ相當ノ手當ヲ給スヘシ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第六條　本令ニ定ムルモノノ外學校醫ノ執務其ノ他ニ關シ必要ナル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一一　學校醫職務規程

昭和七年二月一日文部省令第三號

第一條　學校醫ハ少クトモ毎月二回教授時間内ニ於テ其ノ擔當學校ニ到リ左ノ事項ヲ調査スヘシ但シ必要ニ應シ調査事項ノ取捨ヲ行フコトヲ得

一、校地、建物竝設備ノ衛生ニ關スル事項

二、校具ノ衛生ニ關スル事項

三、教授衛生ニ關スル事項

四、運動ニ關スル事項

五、職員學生生徒兒童ノ健康狀態

六、病者、虚弱者、精神薄弱者等ノ監督竝護ニ關スル事項

七、清潔ニ關スル事項

八、飲料水竝飲食物ニ關スル事項

九、其ノ他衛生上必要ナル事項

臨時必要アル場合ニ於テ學校醫ハ（中略）學校長ノ請求ニ依リ特ニ前項各號ノ全部又ハ一部ニ就キ調査スヘシ

第二條　學校醫ハ學生生徒兒童中病者、虚弱者、精神薄弱者ヲ發見シ若ハ學校長其ノ他ノ職員ヨリ之ニ關スル通知アリタルトキハ其ノ狀況ニ依リ一科目若ハ數科目ノ授業免除、（中略）休學、退學又ハ治療、保護矯正等ヲ要スヘキコトヲ學校長ニ申告スヘシ

前項ノ異狀アル學生生徒兒童中（中略）休學、退學等ヲ要セサル者ニ對シ學校醫ハ繼續的ニ之ヲ監察スヘシ

第三條　學校醫ハ學校職員中學校衛生上注意ヲ要スル者ヲ認見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ

第四條　學校醫ハ學生生徒兒童身體檢査規程ニ依リ學生生徒兒童ノ身體檢査ヲ爲スヘシ

第五條　學校醫ハ學校傳染病豫防ニ關スル事務ニ從事シ同規程第三條及第五條乃至第十條ノ場合ニ於テハ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ

第六條　學校醫ハ第二條第三條及第五條ニ揭ケタル場合ノ外學校衛生上必要ト認メタル事項ニ就キ（中略）學校長ニ申告スヘシ

第七條　學校醫ハ學校衛生ニ關シ學校長ノ諮問ニ應シテ意見ヲ述フヘシ

第八條　學校醫ハ學校長ノ請求ニ應シ學生生徒兒童又ハ其ノ保護者等ニ對シテ衛生ニ關スル講話ヲ爲スヘシ

第九條　學校醫ハ其ノ調査シタル事項、執務ノ狀況、申告者ハ建議セル事項ニ就キ其ノ大要ヲ學校醫執務日誌ニ記入シ

第十條　學校醫ハ本令ニ揭クルモノノ外官立學校（中略）ニ在リテハ夫々當該學校長（中略）ノ命ヲ承ケ學校衛生ニ關スル職務ニ從事スヘシ

第十一條　本令ノ施行ニ關シ必要ナル規程ハ官立學校（中略）ニ在リテハ夫々當該學校長（中略）之ヲ定ムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一二　學校傳染病豫防規程　（抄）　大正十三年九月九日文部省令第一八號

第一條　學校ニ於テ特ニ豫防スヘキ傳染病ノ種類左ノ如シ

第一類　「コレラ」、赤痢（疫痢ヲ含ム）、腸「チフス」、「パラチフス」、痘瘡、發疹「チフス」、猩紅熱、「ヂフテリア」、流行性腦脊髓膜炎、「ペスト」

第二類　百日嗽、麻疹、流行性感冒、流行性耳下腺炎、風疹、水痘

第三類　肺喉頭其ノ他ノ傳染性皮膚病

第四類　「トラホーム」其ノ他ノ傳染性眼炎、疥癬其ノ他ノ傳染病

「コレラ」及「ペスト」ノ疑似症ハ本令ノ適用ニ關シテハ之ヲ「コレラ」及「ペスト」ト看做ス

地方長官ニ於テ傳染病豫防法第二條第二項ノ規定ニ依リ同法ヲ適用スルトキ其ノ他學校傳染病豫防上必要アリト認メタルトキハ「コレラ」及「ペスト」以外ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ本令中其ノ傳染病ニ關スル規定ノ全部又ハ一部ヲ適用スヘシ

官立學校長ニ於テ學校傳染病豫防上必要アリト認メタルトキ又同シ

第一類ノ傳染病ノ病原體保有者ハ本令ノ適用ニ關シテハ之ヲ其ノ傳染病ノ患者ト看做ス

第三條　第一類ノ傳染病ニ罹リタル職員學生生徒兒童等ハ治癒シタル後ニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス

第一類ノ傳染病病原體保持者ハ其ノ病原體消失シタル後ニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス但シ左記各號ノ一ニ該當シ學校醫ニ於テ適當ト認ムル豫防處置ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　罹患後ノ病原體保有者ニシテ其ノ主要症狀消退ノ時ヨリ起算シ左ノ期間ヲ經過シタルモノ

イ　赤痢　十四日

ロ　腸「チフス」、「パラチフス」　二十一日

ハ　「ヂフテリヤ」、流行性腦脊髓膜炎　七日

二　健康病原體保持者

「コレラ」ノ病原體保有者及地方長官又ハ官立學校ニ於テ特別ノ必要アリト認メタル者ニ付テハ前項但書ノ規定ヲ適用セス

第四條　「コレラ」、「ヂフテリヤ」及流行性腦脊髓膜炎ニ在リテハ二十四時間以上、赤痢、腸「チフス」及「パラチフス」ニ

在リテハ四十八時間以上ノ間隔ヲ置キ採取シタル檢査材料ニ付細菌學的檢査ヲ行ヒ引續キ二回以上病原體ノ存在ヲ證明セサル場合ニ於テ病原體消失シタルモノト看做ス

（第二項略）

第五條　第二類ノ傳染病ニ罹リタル職員學生生徒兒童等ハ左記ニ該當スルニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス但シ病況ニ依リ學校醫ニ於テ其ノ傳染病ノ豫防上支障ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　百日咳ニ在リテハ特有ノ嗄聲消失シタルモノ

二　麻疹ニ在リテハ主要症狀消退後七日ヲ經過シタルモノ

三　流行性感冒ニ在リテハ主要症狀消退後三日ヲ經過シタルモノ

四　流行性耳下腺炎ニ在リテハ耳下腺ノ腫脹消失シタルモノ

五　風疹ニ在リテハ主要症狀消退後五日ヲ經過シタルモノ

六　水痘ニ在リテハ痂皮全部脫落シタルモノ

第六條　第三類又ハ第四類ノ傳染病ニ罹リタル職員學生生徒兒童等ハ治癒シタル後ニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス但シ肺喉頭ノ開放結核以外ノ傳染病ニ在リテハ學校醫ニ於テ適當ト認ムル豫防處置ヲ爲シタルトキ又ハ病況ニ依リ傳染ノ虞ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條　職員學生生徒兒童等ニシテ第一類又ハ第二類ノ傳染病患者アル家ニ居住スルモノ又ハ該病毒ニ感染ノ疑アルモノハ豫防處置施行ノ狀況其ノ他ノ事情ニ依リ學校醫ニ於テ傳染ノ虞ナシト認メタル後ニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス

第八條　職員等ハ學校內ニ於テ第一條ニ揭クル傳染病ノ患者又ハ其ノ疑アル者若ハ其ノ死者ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ當該學校長ニ申告スヘシ

學校長ハ必要ト認ムルトキハ當該學校醫ヲシテ診斷セシメ左ニ揭クル處置ヲ爲スヘシ

一　第一類ノ傳染病ニ在リテハ速ニ其ノ地ノ警察官吏又ハ市區町村長ニ通報シ消毒、隔離其ノ他適當ノ處置ヲ爲スヘシ

二　第二類ノ傳染病ニ在リテハ第五條各號ノ一ニ該當スル者及學校醫ニ於テ豫防上支障ナシト認メタル者ノ外昇校ヲ停止シ消毒其ノ他適當ノ處置ヲ爲スヘシ

三　第三類ノ傳染病ニ在リテハ肺喉頭ノ開放結核以外ノ傳染病ノ患者ニシテ學校醫ニ於テ適當ト認ムル豫防處置ヲ爲シタル者又ハ病況ニ依リ傳染ノ虞ナシト認メタル者ノ外昇校ヲ停止シ消毒其ノ他適當ノ處置ヲ爲スヘシ

四　第四類ノ傳染病ニ在リテハ學校醫ニ於テ適當ト認ムル豫防處置ヲ爲シタル者又ハ病況ニ依リ傳染ノ虞ナシト認メサル者ノ外昇校ヲ停止スヘシ

學校內ニ第一條ニ揭クル傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件アルトキハ消毒其ノ他適當ノ處置ヲ爲スヘシ

第九條　第三條第二項但書又ハ第六條但書ニ依リ昇校スル職員學生生徒兒童等アル場合ニ於テ學校長ハ學校醫ノ意見ヲ徵シ必要ト認ムルトキハ左ニ準據シ豫防處置ヲ爲スヘシ

一　病原體保有者又ハ患者ノ座席ヲ健康者ノ座席ト隔ツルコト

二　病原體保有者又ハ患者ノ使用スル器具、書籍等ヲ專用トスルコト

三　病原體保有者又ハ患者ノ座席、器具、書籍等ヲ時々消毒スルコト

四　病原體保有者又ハ患者ノ使用シタル衣服、器具、寢具、書籍其ノ他ノ物ヲ他人ニ交付シ又ハ使用セシムル場合ハ之ヲ消毒スルコト

五「ヂフテリア」、腦脊髓膜炎ノ病原體保有者ニ在リテハ前各號ニ揭クル豫防處置ヲ爲スノ外左ノ事項ヲ遵守セシムルコト

イ 咳嗽、喀痰ノ際ハ布片、紙片等ヲ以テ口鼻ヲ覆フコト

ロ 鼻汁、唾液ノ附着シタル布片、紙片其ノ他鼻汁、唾液ニ汚サレタル物ヲ消毒シ又ハ便池ニ投棄スルコト

六 赤痢、腸「チフス」、「パラチフス」ノ病原體保有者ニ在リテハ本條第一號乃至第四號ニ揭クル豫防處置ヲ爲スノ外左ノ事項ヲ遵守セシムルコト

イ 便所ハ專用トシ上圖ノ都度便池ニ消毒藥ヲ投入スルコト

ロ 便所ノ手洗水ニハ消毒藥ヲ用ヰ上圖ノ都度消毒スルコト

ハ 屎尿ニ汚レタル物ハ之ヲ消毒スルコト

七「トラホーム」其ノ他ノ傳染性眼炎ノ患者ニ在リテハ本條第一號乃至第四號ニ揭クル豫防處置ヲ爲スノ外眼脂ヲ拭フニ清潔ナル專用ノ布片類ヲ使用セシムルコト

第十條 學校內、學校所在地及其ノ附近ニ於テ第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シ其ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ關係ノ學校ノ全部若ハ一部ノ閉鎖又ハ休業ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ學校長ハ直ニ監督官廳ニ屆出ツヘシ

第十一條 學校所在地若ハ其ノ附近ニ於テ第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ其ノ狀況ニ依リ適當ナル消潔方法ヲ施行スヘシ

第十二條 傳染病ノ爲閉鎖シタル學校若ハ其ノ舍室ハ再ヒ之ヲ使用スルニ先チ十分ナル消潔方法ヲ施行スヘシ

第十三條 學生生徒兒童ノ通學區域內若ハ職員等ノ居住地ニ於テ第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シ其ノ狀況ニ依リ必要

ト認ムルトキハ學校長ハ學校醫ノ意見ヲ徵シ其ノ地域ヨリ通學スル學生生徒兒童及職員等ノ昇校ヲ停止スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第一類又ハ第二類ノ傳染病流行地ニ滯在シタル學生生徒兒童及職員等ニ對シ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テハ學校長ハ直ニ之ヲ監督官廳ニ屆出ツヘシ

第十四條 學校ノ寄宿舍ニ於テ第一類ノ傳染病發生シタルトキハ官立學校長又ハ地方長官ハ左ノ各號ニ依リ文部大臣ニ報告スヘシ

一 初發ノ場合ニハ病名、發病ノ日、(發病ノ日不明ノトキハ診斷決定ノ日)、患者數、疾病ノ經過、感染經路、發病以來ノ處置、將來執ラントスル處置其ノ他參考トナルヘキ事項ニ付週滯ナク報告スヘシ

二 續發セル場合ニハ病名、發病ノ日(發病ノ日不明ノトキハ診斷決定ノ日)、患者數、初發報告以外特ニ執リタル處置其ノ他參考トナルヘキ事項ニ付報告スヘシ但シ多數ノ患者連續發生スルトキハ即時報告スヘシ

三 前二號ノ患者ノ轉歸ハ治癒、死亡其ノ他(休學退學等)ニ分チ報告スヘシ

第十五條 學校長ハ學校ノ設備ニ關シ第三類及第四類ノ傳染病豫防ノ爲左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 手洗水ハ流出裝置ト爲スコト

二 共同手拭ヲ備ヘサルコト

三 學生生徒兒童ノ數ニ應シ液體ヲ入レタル適當箇數ノ唾壺ヲ配置シ唾壺內ノ唾痰ハ消毒シタル後之ヲ便池ニ投棄スルコト

四 宿直其ノ他ノ爲ニ使用スル共同ノ寢具ハ之ヲ各自專用ノ白布又ハ使用者ヲ改ムル毎ニ洗濯シタル白布ヲ以テ被包スルコト

(中略)

第十七條　本規程ニ依リ行フ消毒方法ノ要項左ノ如シ
（後略）
第十八條　消毒方法ノ要項左ノ如シ
（後略）

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一三　學生生徒兒童身體檢査規程（抄）大正九年七月二十七日文部省令第一六號

第一條　學生生徒兒童身體檢査ハ毎年四月ニ於テ之ヲ施行スヘシ但シ止ムヲ得サル場合ハ五月ニ於テ之ヲ施行スルコトヲ得

監督官廳又ハ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ學校醫ニ於テ必要ト認メ學校長ノ同意ヲ得タルトキハ身體檢査ノ全部若ハ一部ヲ臨時施行スルコトヲ得

第二條　身體檢査ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

學校醫ナキ場合若ハ學校醫カ身體檢査ヲ行ヒ難キ事情アルトキハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

學校職員又ハ他ノ適當ナルモノヲシテ身體檢査ノ一部ヲ助ケシムルコトヲ得

第三條　身體檢査ハ左ノ項目ニ就キ施行スヘシ

一發育（身體長、體重、胸圍、概評）二脊柱　三視力及屈折狀態　四色神　五眼疾　六耳疾　七聽力　八齒　九齒

牙　十其ノ他ノ疾病及異常　十一靈柔ノ要否

前項目ノ外必要ト認メタル事項ハ特ニ檢査ヲ行フコトヲ得

色神檢査ハ在學中一回行ヒタルトキハ其ノ後之ヲ省略スルコトヲ得

第四條　身體檢査ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スヘシ

一　檢査ノ表記ニハ度ハセンチメートル、衡ハキログラムヲ以テ單位トシ四捨五入法ヲ用ヒテ夫々單位ノ下一位ニ止ムヘシ

二　身長ヲ測定スルニハ足袋、靴等ヲ脫セシメ兩踵ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ

三　體重ハ着衣ノ儘測定シタルトキハ其ノ着衣ノ重量ヲ全重量ヨリ除去スヘシ

四　胸圍ハ起立ノ姿勢ニ於テ兩上肢ヲ自然ニ垂レシメ乳頭ノ水平線ニ沿ヒ普通呼氣ノ終レル時ヲ測定スヘシ

五　發育ノ概評ハ別ニ定ムル標準ニヨリ甲、乙、丙ノ三ニ分ツルモノトス

六　榮養ハ甲、乙、丙ニ分チ其ノ佳良ナルヲ甲トシ不良ナルヲ丙トシ其ノ中間ナルヲ乙トス

七　脊柱ハ正、左彎、右彎、後彎ヲ區別シ彎ニ就テハ凡テ其ノ凸側ニ依リテ前後左右ノ方向ヲ表示スルモノトス其ノ程度ハ之ヲ强弱ノ二種ニ區別シ自己ノ意思ニ依リ容易ニ矯正シ得ルモノヲ弱トシ然ラサルモノヲ强トス

八　視力ハ萬國式試視力表ニ就キ兩眼ヲ各別ニ檢査シ裸眼視力ヲ記入スヘシ

裸眼視力一、〇以上ナルヲ正視眼トス

屈折機ノ異常アルモノハ其ノ種別ヲ記入スヘシ

弱視、失明等モ兩眼ニツキ各別ニ記入スヘシ

九　色神ハ其ノ異常アルモノニ就キ色盲及色弱ヲ區別スヘシ

十　聽力ハ其ノ障害ノ有無ヲ檢査スヘシ

十一　齒牙ハ齲歯ニ就キ檢査スヘシ

十二　其ノ他ノ疾病及異常ハ檢査ノ際發見シタルモノヲ記入スヘシ殊ニ結核性疾患、腺病、肋膜炎、心臟疾患及機能障碍、貧血、脚氣、傳染性皮膚病、脈樣增殖症及扁桃腺肥大、「ヘルニヤ」、神經衰弱、精神障碍ニ注意スヘシ

十三　監察ノ要否ハ檢査ノ結果身心ノ健康狀態不良ニシテ學校衛生特ニ繼續的ニ監察ヲ要スト認ムル者ヲ「要」トシ記入スルモノトス

第五條　第一條第一項ノ身体檢査ヲ施行シタルトキハ其ノ結果ヲ身体檢査票ニ記入シ本人同一種類ノ學校ニ在學中連年之ヲ繼續スヘシ但シ程度ヲ異ニスル學科部類ヲ有スル學校ニ在リテハ其ノ部類毎ニ別表ヲ用フルモノトス

第一條第二項ノ臨時身体檢査ノ際必要ト認ムル事項ヲ發見シタルトキハ之ヲ身体檢査票ノ裏面ニ記入スルモノトス繼續的監察ノ場合亦同シ

他校ヨリ轉入シタル者アルトキハ學校長ハ前ノ學校ヨリ其ノ身体檢査票ノ交付ヲ受ケ使用スヘシ、身体檢査票ハ學校長ニ於テ保管スヘシ

第六條　身体檢査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ其ノ結果ヲ本人若ハ其ノ保護者ニ示スヘシ授業免除、就學猶豫、就學免除、休學、退學又ハ治療保護矯正等ヲ要スヘキモノアルトキハ本人若ハ其ノ保護者ニ對シテ特ニ注意ヲ與ヘ其ノ他必要ナル處置ヲ取ルヘシ

第七條　第一條第一項ノ身体檢査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ身体檢査統計表ヲ調製シ其ノ年六月限リ直轄學校長（中略）ニ在リテハ文部大臣ニ（中略）報告スヘシ

第九條　特別ノ事情アル場合ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ本令ノ身体檢査ヲ行ハサルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（身体檢査票及統計表樣式略）

一四　學生生徒兒童身體檢査規程上ノ發育概評決定標準　（抄）

昭和二年三月十二日文部省訓令第二號

學生生徒兒童及幼兒ノ發育概評ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

一　七年ヨリ十八年マテノ男子（中略）ニ在リテハ被檢者ノ身長、体重、身長ヲ以テ体重ヲ除シタル商ノ三者カ何レモ左記發育概評決定標準表ニ照シテ當該年齡ヨリ一年々長ノモノ、標準以上ナルヲ甲トシ甲乙何レニモ該當セサルモノヲ丙トス

二　十九年以上ノ男子ニアリテハ身長一六〇・六センチメートル、体重五三・六キログラム、身長ヲ以テ体重ヲ除シタル商カ〇・三三四以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ身長一五七・〇センチメートル、体重四八・八キログラム、身長ヲ以テ体重ヲ除シタル商カ〇・三一一以上ナルヲ乙トシ甲乙何レニモ該當セサルヲ丙トス

（以下略）

三　前各號ニ於ケル被檢者ノ身長ヲ以テ体重ヲ除シタル商ノ計算ハ小數第三位ニ止メ第四位以下ハ切捨ツルモノトス

發育概評決定標準表（抄）　十五年以下ヲ略ス

年齢	男 身長	男 体重	身長ヲ以テ体重ヲ除シタル商
十六年	一五二・七	四四・五	〇・二九一
十七年	一五七・〇	四八・二	〇・三〇七
十八年	一五九・一	五〇・七	〇・三一九
十九年	一六〇・三	五二・六	〇・三二八

附　則

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一五　文部省直轄諸學校生徒他ノ直轄諸學校ヘ入學方

明治三十八年十月二十八日文部省令第一八號

高等師範學校及文部省直轄諸學校ノ生徒ニシテ幾メ學校長ノ許可ヲ受ケス他ノ高等師範學校及文部省直轄諸學校ノ入學試驗ヲ受ケタルトキハ其ノ入學試驗ハ無效トス

一六　體育運動ノ振興ニ關スル件

大正十五年三月八日文部省訓令第三號

近時學校ノ内外ヲ問ハス體育運動著シク勃興シ國民ノ間ニ漸ク其ノ普及ヲ見ルニ至レルハ學校教育竝社會教育上洵ニ慶フヘキコトトス然ルニ之ヲ各國ノ事例ニ徴シ我カ國ノ實況ニ照ストキハ將來尚一層其ノ改善ト進歩トヲ促シ普ク國民ヲシテ斷エス體育運動ヲ合理的ニ實施セシメ以テ國民ノ精神的竝身體的訓練ヲ完ウシ其ノ品性竝體位ル向上セシムルハ極メテ緊要ノコトタリ世上動モスレハ體育運動ヲ一部愛好者ノ專有ニ任セ或ハ運動競技ニ於テ徒ニ勝敗ニ捉ハレ尚フヘキ運動精神ヲ閑却スルカ如キ弊ナキニアラサルモ斯ノ如キハ體育運動ノ目的ニ副ハサルモノニシテ健全ナル國民體育ノ普及發達上甚タ遺憾ナルコトト言ハサルヘカラス

地方長官竝直轄學校長ハ以上ノ趣旨ニ則リ左記事項ニ準據シ體育關係者ヲシテ我カ國情ニ應シ地方ノ實情ニ適セル體育運動ノ普及發達ニ力メシムルヤウ適宜ノ措置ヲ講セラルヘシ

一　體育運動ノ指導ニ關スル事項

體育運動指導ノ任ニ當ル者ハ左記各項ニ留意シ適切ナル指導ヲ爲スコト

（一）常ニ體育運動ノ目的、技術、衛生的注意等ニ付正シキ知識ヲ授ケ且廣ク體育運動思想ノ普及ヲ圖ルコト

（二）體育運動ヲ行フニ當リテハ運動精神ノ發揚ヲ圖リテ德性ノ涵養ニ力メ且身體ノ修練ヲ重ンスルコト

（三）體育運動ハ一部少數者ニ限ルコトナク普ク國民ヲシテ之ニ與カラシメ且一時的ニ過度ニ陷ルコトナク斷エス正シク之ヲ行フ習慣ノ養成ニ力ムルコト

（四）體育運動ノ種目（體操、遊戯、競技、劍道、柔道、弓道、水泳、乘馬、相撲、スキー、スケート、登山、遠足等）竝其ノ實施程度ハ運動ヲ行フ者ノ年齢、環境、土地ノ事情、季節等ヲ顧慮シ適當ニ之ヲ定ムルコト

（五）女子ノ體育運動ニ關シテハ特ニ其ノ精神的竝身體的特徴ニ適合セル運動ノ種目及實施方法ヲ選定シ且運動時ノ態度、服裝等ニ注意スルコト

（六）身體虚弱者ノ體育運動ニ關シテハ體質、體力、氣質其ノ他ノ心身狀態ヲ顧慮シテ適當ナル運動ノ種目及實施方法ヲ選定シ且運動量ノ限定、休養其ノ他ノ衛生的養護ニ注意スルコト

（七）運動ヲ行フ場所、運動用具、救急設備等ニ注意シ運動ニ因ル傷害ノ豫防ヲ怠ラサルコト

二　運動選手及運動競技會ニ關スル事項

運動選手ノ選定、對抗競技會、選手權競技會及之ニ類スル競技會ノ開催、管理等ニ關シテハ學校長、團體又ハ競技會ノ管理者等ハ左記各項ニ留意シ適當ナル措置ヲ爲スコト

（一）運動選手ハ身體强壯ニシテ操行正シク學業又ハ業務ニ忠實ナルヘキユト

（二）運動選手ハ强要スルカ如キ方法ヲ以テ之ヲ選定セサルコト

（三）學校又ハ團體ノ選手ノ選定及競技會參加ニ關シテハ其ノ學校長又ハ管理者ノ承認ヲ經ヘキコト

（四）運動選手ハ運動精神ヲ重ンシ其ノ行動ハ公明正大ニシテ競技ノ勝敗ノミニ捉ハレサルコト

（五）學校ノ競技會開催ニ付テハ當該學校長ノ承認ヲ經ヘキコト

（六）體育運動團體其ノ他各種團體ノ競技會開催ニ付テハ出來得ル限リ教育關係者ト聯絡ヲ採リ競技會ノ計畫、實施等總テ教育的ナラシムルコト

（七）學校、團體等ノ競技會開催ニ付テハ互ニ聯絡ヲ採リ同一選手ノ參加スヘキ競技會ヲ數次重復セシメサルコト

◎關係法規

（八）競技會ノ開催ニ關シテハ開催ノ時期、日數、參加地域等ヲ顧慮シ選手應援者等ヲシテ學業又ハ業務ニ支障ヲ來サシメス且多額ノ參加費用ヲ要セサラシムルコト

（九）競技會ノ實施ニ當リテハ其ノ管理者、役員、選手、應援者、參觀者等ハ各々職分ヲ守リ其ノ責ニ任シテ競技ノ進行上遺憾ナキヲ期スルコト

三　體育運動團體ニ關スル事項

學校及團體ノ關係者ハ體育運動團體ノ組織竝管理ニ關シ左記各項ニ留意シ其ノ健全ナル發達ヲ圖ルコト

（一）學校ニ於ケル體育運動ニ關スル團體ヲ組織スル場合ハ學校長タル者之カ管理ニ當ルコト

（二）學校ニ於ケル體育運動團體ハ成ルヘク學校間ニ於テ聯絡ヲ保ツコト

（三）學校以外ノ体育運動團体ハ其ノ管理ニ關シ成ルヘク教育關係者ト聯絡ヲ採リ事業ノ達成ニ力ムルコト

一七　野球ノ統制竝施行ニ關スル件

昭和八年三月二十八日文部省訓令第四號

我カ國ニ於ケル運動競技ガ近時著シク普及發達シタルハ實ニ体育ノ爲ニ之ヲ賀スヘキノミナラス國民ノ資質向上ノ見地ヨリ大ニ之ヲ慶ハサルヘカラス

運動競技カ國民ノ健康ヲ增進シ体位ヲ向上セシムルノ效果ハ固ヨリ言ヲ俟タス更ニ人人ノ元氣ヲ振作シ氣宇ヲ明朗快濶ニシ其ノ態度ヲ公明眞摯ナラシムル等所謂運動精神ヲ体得セシメテ不知不識ノ間ニ人格ノ敎養ニ資スルノ大ナルハ深ク顧慮スヘキ所ニシテ体育運動カ近世ノ敎育ニ最モ重シセラルルノ理由亦此ニ存ス顧フニ我カ國ニ於ケル運動競技中野球ハ比較的舊クヨリ行ハレ普及ノ節圍最モ廣ク其ノ一般民衆ニ及ホス影響亦甚大ナルヲ以テ体育運動ノ振興ヲ期セントスルニハ先ツ野球ノ健全ナル發達ヲ圖ルノ要アリ而シテ學生ニ依リテ行ハルル野球カ一般野球界ノ中心ヲナセルノ實情ニ鑑ミルトキハ之カ第一著手トシテ其ノ適正健全ナル發達ヲ圖ルヲ喫緊ノ急務トナササルヘカラス是レ今回特ニ學生野球ノ施行ニ關シ其ノ據ルヘキ基準ヲ示サントスル所以ナリ

凡ソ學生野球ノ要ハ敎育ノ本義ニ則リテ運動競技ノ精華ヲ發揮セシムルニ在リ即チ之ヲ行フ者常ニ克ク學生ノ本分ヲ体シ純正ナル心情ヲ持スルヲ以テ念トナササルヘカラス然レトモ往々ニシテ之ニ伴フ弊ナキ能ハスカノ野球ヲ行フ者又ハ野球ヲ觀ル者ノ熱狂ノ餘常規ヲ逸シ正道ヲ離ルルコト是ナリ此ノ如キハ互ニ相警メ又自ラ抑制シテ正シキニ就カシムヘキハ論ヲ俟タス尙且本邦ニ於ケル野球ハ其ノ發達ノ過程復雜ニシテ之カ施行ノ体樣亦區々ニ流レ爲ニ適正ナル發達ヲ損ヒタルコト少カラス是ヲ以テ其ノ施行ニ關スル組織益々整備シ其ノ統制愈々確立スルニ至ヲハ更ニ一層之カ成果ヲ善美ナラシムルコトヲ得ヘシ茲ニ本邦野球界ノ現狀ハ此ノ種ノ企劃ヲ實施スルニ方リ特殊ノ困難ノ之ニ伴フコト鮮カラサル

◎關係法規

ヘシト雖モ官民協力シテ堅忍事ニ當ラハ成功ノ日ハ必ス到來スヘシト信ス

茲ニ學生野球ノ施行ニ關シ幾多ノ規矩ヲ揭ゲ其ノ實施ヲ勵奬シ以テ之カ適正健全ナル發達ヲ期セントス局ニ當ル者克ク本令ノ趣旨ヲ体シ其ノ達成ニ努ムル所アルベシ

一　小學校ノ野球ニ關スル事項　（略）

二　中等學校ノ野球ニ關スル事項　（略）

三　大學及高等專門學校ノ野球ニ關スル事項

一　全國的大會、地方的大會若ハ聯盟試合ヲ開催スル常置ノ團体ハ其ノ役員中ニ關係學校又ハ其ノ體育會（又ハ運動會）ノ責任者若ハ野球部長ヲ加ヘ豫メ團体ノ代表者ニ於テ左記事項ヲ具シ文部省ニ報告シ其ノ公認ヲ受クヘキコト但シ關係學校多數ノ爲全部ノ學校ヨリ役員ヲ加ヘ難キ場合ハ適當ノ員數ニ制限スルモ妨ケナキコト

㈠　團体ノ名稱

㈡　事務所ノ所在地

㈢　團体代表者ノ氏名

㈣　團体組織ニ關スル規定

㈤　事業施行ニ關スル規定

㈥　經費ニ關スル詳細ナル規定

前記各號ノ事項ニ變更ヲ生シタル場合ハ其ノ都度文部省ニ報告シ其ノ承認ヲ得ヘキコト

二　前項ノ常置團体ハ毎年度ノ始メニ於テ其ノ年度ノ事業豫定竝收支豫算及前年度ノ事業概要竝收支決算ヲ文部省ニ報告スヘキコト

三　第一項ノ常置團体以外ノ團体ニ於テ全國的大會、地方的大會、聯盟試合若ハ是等ニ準スル試合ヲ開催セントスルトキハ參加學校長承認ノ下ニ試合ノ施行竝經理方法ヲ具シ試合開催前豫メ文部省ノ公認ヲ受クヘキコト

四　兩校對抗試合ハ當該學校長承認ノ下ニ行ハレ得ルコト但シ入場料ヲ徵收スル場合及當該學校カ何レモ其ノ所在スル府縣ヲ離レ試合ヲ行フ場合ハ其ノ件ニ關シ豫メ當該學校ニ於テ文部省ノ承認ヲ受クヘキコト

入場料ヲ徵收シタル場合ハ試合終了後其ノ收支ヲ滯遲ナク文部省ニ報告スヘキコト

五　入場料ヲ徵收スル試合ヲ行ヒ其ノ使途ニ於テ入場料ニ關スル事項中二ノ㈣ニ充當スル場合ハ其ノ事情ヲ具シ文部省ノ承認ヲ得ヘキコト

六　選手ハ學校醫ノ健康證明ヲ受ケ學校長ニ於テ適當ト認メタルモノニ限ルコト

七　學生生徒ハ文部省ノ認メタル場合ノ外入場料ヲ徵收スル試合ニ參加スルヲ得サルコト

八　選手ハ在籍又ハ出身學校ヲ背景トスル「クラブチーム」以外ノ「チーム」ニ加ハリ優勝大會若ハ之ニ準スヘキ試合ニ出場スルヲ得サルコト但シ文部省ノ公認セル常置團体ニ於テ之ニ就キ文部省ノ承認ヲ得テ構成スル全國的又ハ地方的ノ選拔「チーム」ニ參加スル場合ハ此ノ限ニ在ラサルコト

九　試合ハ土曜日ノ午後又ハ休業日ニ限リ行フコト但シ以上ノ期日外ニ行フ場合ハ關係學校當局ニ於テ支障ナキモノト認メタル場合ニ限ルコト

四　入場料ニ關スル事項

一　入場料ハ入場者ノ整理ヲナシ「二」ニ揭クル經費ニニ充ツル場合ニ限リ之ヲ徵收シ得ルコト

二　入場料其ノ他ノ收入ハ之ニ就キ文部省ノ承認ヲ得タル團体ニ於テ收受シ左ノ順序ニヨリ支出シ体育運動以外ノ經費ニ充當セサルコト但シ体育運動体團（大學及高等專門學校ニ關シテハ學校ヲ含ム）以外ノ主催者カ收受スル場合ハ豫